



N1 Grid Service Provisioning System 5.0 コマンド行インタ フェース (CLI) リファレンスマ ニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-1541-10
2004 年 12 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Command-Line Interface Reference Manual

Part No: 817-6504-10

Revision A



050126@10536



目次

はじめに	11
1 コマンド行インタフェースの使用	15
CLI コマンドの構造	16
NM: を使った ID 置換	18
CLI の入力と出力	19
出力をファイルへリダイレクト	19
ファイルからの入力の読み取り	19
ファイルからの CLI 引数の読み取り	19
CLI コマンドの出力書式	20
出力書式の変更	21
コマンド行インタフェースの実行	21
▼ 単一コマンド CLI を実行する	22
▼ CLI Jython インタプリタを実行する	22
コマンド行ヘルプの利用	23
CLI コマンドの一覧	23
2 cat:カテゴリを管理するコマンド	25
cat コマンドの概要	25
cat.add	25
cat.del	26
cat.mod	26
cat.la	26

3	cdb:コンポーネントを管理する CLI コマンド	29
	cdb コマンドの概要	29
	cdb.c:コンポーネントの管理	30
	cdb.c.ci	31
	cdb.c.co	31
	cdb.c.la	32
	cdb.c.lo	32
	cdb.c.lv	33
	cdb.c.mod	33
	cdb.c.mv	34
	cdb.c.sc	34
	cdb.c.sc	35
	cdb.c.del	35
	cdb.ic:インストール済みのコンポーネントの管理	36
	cdb.ic.lbc	36
	cdb.ic.lbh	36
	cdb.ic.vs.lo	37
	cdb.vs:変数設定の管理	37
	cdb.vs.add	38
	cdb.vs.del	38
	cdb.vs.imp	38
	cdb.vs.la	39
	cdb.vs.lo	39
	cdb.vs.mod	39
	cdb.ssr:システムサービス ref コマンド	40
	cdb.ssr.add	40
	cdb.ssr.mod	41
	cdb.ssr.del	42
	cdb.ssr.lo	42
	cdb.ssr.la	42
	cdb.ctr:コンポーネントタイプのコマンド	42
	cdb.ctr.add	43
	cdb.ctr.mod	43
	cdb.ctr.del	44
	cdb.ctr.lo	44
	cdb.ctr.la	45
	cdb.rsrc:コンポーネントの管理	45
	cdb.rsrc.ci	45

	cdb.rsrc.cib	48
	cdb.rsrc.co	52
	cdb.rsrc.rci	53
	cdb.rsrc.showopts	53
	cdb.cj:チェックインジョブの管理	54
	cdb.cj.la	54
	cdb.cj.lo	54
	cdb.cj.stop	55
4	cfg:構成を生成する CLI コマンド	57
	cfg コマンドの概要	57
	cfg.gen	57
5	cmp:比較を実行する CLI コマンド	59
	cmp コマンドの概要	59
	cmp.dj.add	60
	cmp.dj.del	60
	cmp.dj.la	60
	cmp.dj.lo	60
	cmp.ds.add	61
	cmp.ds.la	62
	cmp.ds.lo	63
	cmp.ds.del	63
	cmp.ds.mod	63
	cmp.ds.sc	65
6	fdb:フォルダを管理する CLI コマンド	67
	fdb コマンドの概要	67
	fdb.f.add	67
	fdb.f.mod	68
	fdb.f.mv	68
	fdb.f.del	68
	fdb.f.la	69
	fdb.f.lo	69
	fdb.f.co	69
	fdb.f.mp	70

7	hdb:ホストを管理する CLI コマンド	73
	概要	73
	hdb.a:アプリケーションインスタンスの管理	74
	hdb.a.add	74
	hdb.a.del	75
	hdb.a.la	75
	hdb.a.lo	76
	hdb.a.mod	76
	hdb.a.clear	77
	hdb.h:ホストの管理	77
	hdb.h.add	78
	hdb.h.del	78
	hdb.h.la	78
	hdb.h.lo	79
	hdb.h.lq	79
	hdb.h.mod	80
	hdb.hr:ホスト検索の管理	80
	概要	80
	hdb.hr.add	81
	hdb.hr.del	82
	hdb.hr.la	82
	hdb.hr.le	82
	hdb.hr.lo	82
	hdb.hr.mod	83
	hdb.hs:ホストセットの管理	83
	hdb.hs.add	84
	hdb.hs.del	84
	hdb.hs.la	85
	hdb.hs.le	85
	hdb.hs.lo	85
	hdb.hs.mod	86
	hdb.ht:ホストタイプの管理	86
	概要	86
	hdb.ht.add	87
	hdb.ht.del	87
	hdb.ht.la	87
	hdb.ht.lo	88
	hdb.ht.mod	88

- 8 **net:**ネットワーク操作を実行する CLI コマンド 89
 - net コマンドの概要 89
 - net.genconfg 89
 - net.ping 90
 - net.traceroute 90

- 9 **pdb:**プランを管理する CLI コマンド 93
 - pdb コマンドの概要 93
 - pdb.p.ci 94
 - pdb.p.co 94
 - pdb.p.genplan 94
 - pdb.p.la 95
 - pdb.p.lo 95
 - pdb.p.del 96
 - pdb.p.lv 96
 - pdb.p.mv 96
 - pdb.p.sh 96
 - pdb.p.sc 97

- 10 **pe:**プランを実行する CLI コマンド 99
 - pe コマンドの概要 99
 - pe.h.prep 100
 - pe.p.en 100
 - pe.p.la 100
 - pe.p.lo 101
 - pe.p.del 101
 - pe.p.lp 101
 - pe.p.run 102
 - pe.p.stop 103
 - pe.pi.lo 104

- 11 **plg:**プラグインの CLI コマンド 105
 - plg コマンドの概要 105
 - plg.p.add 105
 - plg.p.del 106
 - plg.p.la 106
 - plg.p.lo 106

plg.p.mod 106

12 rule:通知のための CLI コマンド 109

rule コマンドの概要 109

rule.add 109

rule.del 111

rule.la 111

rule.lo 111

rule.mod 111

13 udb:ユーザーとグループを管理する CLI コマンド 113

udb コマンドの概要 113

udb.g:ユーザーグループの管理 114

udb.g.add 114

udb.g.del 115

udb.g.la 116

udb.g.lo 116

udb.g.lp 116

udb.g.lu 116

udb.g.mod 117

udb.u:ユーザーアカウントの管理 118

udb.u.add 119

udb.u.cp 119

udb.u.la 119

udb.u.lo 120

udb.u.lp 120

udb.u.mod 120

udb.sv:セッション変数の管理 121

udb.sv.add 122

udb.sv.del 122

udb.sv.fl 123

udb.sv.la 123

udb.sv.lo 123

udb.sv.mod 123

udb.sv.re 124

認証コマンド 124

udb.login 124

- udb.logout 125
- udb.whoami 125
- udb.p:アクセス許可を管理するコマンド 125
 - udb.p.la 125
 - udb.p.lo 126
- udb.l:ログイン構成の管理 126
 - udb.l.la 126

14 util:その他の CLI コマンド 127

- util コマンドの概要 127
 - util.msv 127
 - util.reformat 128
 - util.xfm 128

A 入力タイプ 131

はじめに

『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 コマンド行インタフェース (CLI) リファレンスマニュアル』では、ホスト、ユーザー、コンポーネント、プランを管理するための N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアコマンドについて説明します。

対象読者

このマニュアルは、N1™ Grid Service Provisioning System を使ってホストやユーザーを管理するユーザーや、アプリケーションをデータセンターにインストールし、管理するユーザーを対象に書かれています。

このマニュアルの構成

このマニュアルでは、コマンド行インタフェースの概要を紹介したあと、いくつかの章に分けて、プロビジョニングソフトウェアの管理コマンドについて説明します。巻末には、付録として、入力タイプの書式の説明が付属しています。

関連マニュアル

N1 Grid Service Provisioning System のマニュアルセットは、以下のマニュアルで構成されています。

- N1 Grid Service Provisioning System 5.0 リリースノート

- *N1 Grid Service Provisioning System 5.0* インストールガイド
- *N1 Grid Service Provisioning System 5.0* システム管理者ガイド
- *N1 Grid Service Provisioning System 5.0* オペレーションとプロビジョニングガイド
- *N1 Grid Service Provisioning System 5.0* プランとコンポーネントの開発者ガイド
- *N1 Grid Service Provisioning System 5.0 XML* スキーマリファレンスガイド
- *N1 Grid Service Provisioning System 5.0 Plug-In Developer's Guide*

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
<i>AaBbCc123</i>	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

第 1 章

コマンド行インタフェースの使用

この章では、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアのコマンド行インタフェース (CLI) について説明します。この CLI を使って、サーバーから Master Server へコマンドを送信することができます。この CLI は、シェルプロンプト、DOS プロンプト、スクリプトのいずれかを使って実行できます。ブラウザインタフェースの代わりに CLI を使って Master Server にアクセスすることもできます。CLI を使用するためには、まずローカルサーバーに Command-Line Interface Client をインストールする必要があります。

CLI は、次のいずれかのモードで実行されます。

- 単一行モード – このモードでは、完全なコマンドを入力する必要があります。足りない情報があっても、その情報の入力を求めるプロンプトは表示されません。
- 対話モード – このモードでは、1 個以上のコマンドを実行できるログインセッションがスタートします。この方法でログインセッションを始めた場合、ユーザー認証は 1 回だけで済みます。このモードは、すでにサーバーにインストールされている Jython プログラミング言語に依存しています。『N1 Grid Service Provisioning System 5.0 インストールガイド』を参照してください。

Jython プログラミング言語は、オブジェクト指向の Python 言語の Java™ 実装です。Command-Line Interface Client をインストールする予定のすべてのシステムに、Jython をインストールする必要があります。詳細については、<http://www.jython.org> を参照してください。

この章の内容は次のとおりです。

- 16 ページの「CLI コマンドの構造」
- 19 ページの「CLI の入力と出力」
- 20 ページの「CLI コマンドの出力書式」
- 21 ページの「コマンド行インタフェースの実行」
- 23 ページの「コマンド行ヘルプの利用」

CLI コマンドの構造

cr_cli コマンドの構文は次のとおりです。

```
cr_cli -cmd command authentication-arguments [ other-arguments ]
```

ほとんどのコマンドは、認証引数 `-u` および `-p`、または `-s` を使用する必要があります。コマンドが認証引数を必要とするかどうかについては、そのコマンドの説明を参照してください。コマンド行内の認証引数の位置は決まっていますが、必ず引数 `-cmd`、`-h`、`-o`、`-of` の後ろに挿入してください。

`-cmd command` 実行するコマンドの名前。

すべての CLI コマンドは、次の書式を使用する。

```
subsystem . object . command
```

たとえば、ホストをデータベースに追加するコマンドは `hdb.h.add`。

subsystem はサブシステムの名前。たとえばホストデータベースコマンドは、`hdb` で表される。

object はコマンドの影響を受けるオブジェクト。たとえばホストは、`h` で表される。

command はコマンドが実行するアクション。たとえばホストをデータベースに追加するアクション、`add` などがある

authentication-arguments

ほとんどの CLI コマンドは認証を必要とするが、ヘルプの表示や使用可能なコマンドの一覧表示には認証は不要。

`-u user-name` 認証に使用するユーザー名。認証を行うためには、このユーザーのパスワードも指定する必要がある。

ユーザー名とパスワードを入力する代わりに、セッション ID を指定する方法もある

`-p password` `-u` で指定されたユーザーの認証に使用されるパスワード。

コマンド行に指定したパスワードは保護されていない。プロセスリストやシェルのコマンド行履歴に、このパスワードが含まれている可能性がある。したがって、パスワードを保護するには、ユーザー名とパスワードをローカル

ファイルシステム上のファイルに保存し、コマンドへの入力としてこのファイルを参照するとよい。これについては、例 1-1 の最初の例を参照のこと。また、ユーザーがこのファイルを所有していることと、このファイルの読み取りがこのユーザーだけに許可されていることを確認すること

`-s session-ID` セッションの認証に使用されるセッション ID。

セッション ID を取得し、認証用として使用する方法については、19 ページの「ファイルからの入力の読み取り」を参照のこと。

セッション ID を入力する代わりに、引数 `-u` と `-p` を使ってユーザー名とパスワードを指定することもできる

other-arguments *command* に関連付けられた引数と値

`cr_cli` コマンドは成功時に 0、失敗時に 1 を返します。

例 1-1 CLI の使用

以下に、プロビジョニングソフトウェアの CLI の使用例を示します。

- ファイルからユーザー名とパスワードを読み取る例。ファイル `.terryp` には、Terry のユーザー名とパスワードが以下のような書式で格納されています。

```
-u
terry
-p
securepasswd
```

`hdb.h.lo` コマンドを認証する場合、Terry は次のコマンドを実行します。

```
cr_cli -cmd hdb.h.lo -exp:terryp
```

このファイルをローカルファイルシステムに格納し、ファイルのアクセス許可を設定して、このファイルへのアクセスを制限します。詳細については、19 ページの「ファイルからの CLI 引数の読み取り」を参照してください。

- ユーザー `terry` がホスト `barolo7` の情報を取得する例。このコマンドでは、コマンド行に直接パスワードを入力します。

```
cr_cli -cmd hdb.h.lo -ID NM:barolo7 -u terry -p password
```

この方法で指定したパスワードは保護されません。

例 1-1 CLI の使用 (続き)

- 文字列を引用記号で囲むことによって、空白文字を含む引数を渡す例。ユーザー `terry` が、`myWebServer` という名前のコンポーネントの説明を変更します。

```
cr_cli -cmd cdb.c.mod -comp myWebServer
      -desc "Version 3.7 of My Web Server" -u terry -p 123xyz
```

UNIX® システムでは、空白文字のエスケープ文字として、バックスラッシュ (\) を使用します。

```
cr_cli -cmd cdb.c.mod -comp myWebServer -u terry -p 123xyz
      -desc Version\ 3.7\ of\ My\ Web\ Server
```

NM: を使った ID 置換

ユーザーが作成したほとんどのオブジェクトには、ID 番号が付けられます。ID 番号は、リポジトリ内のオブジェクト (ユーザーアカウント、コンポーネントなど) を識別する一意の識別子です。

ID 番号は便利ですが、扱いにくい場合もあります。ID 番号の代わりに名前を使用する場合は、NM: 表記を使ってオブジェクト名を入力します。

サポートされている NM: マッピングの一覧は、[付録 A](#) に記載されています。

たとえば、ホスト、ユーザー名、ユーザーグループ名、ホストタイプ名などのオブジェクト ID の代わりに、次のような構文を使用することができます。

```
NM: host
NM: user-name
NM: user-group-name
NM: host-type-name
```

NM: 構文では、名前やオプションのバージョン番号を指定して、コンポーネントやプランを識別することができます。

```
NM: plan-name [:version]
```

以下に、この表記の使用例を示します。

```
NM: simplePlan
NM: simplePlan:1.0
NM: /foo/bar/simplePlan:1.1
```

バージョン番号の指定を省略した場合、最新バージョンが使用されます。

CLI の入力と出力

以下では、CLI の入力としてファイルを使用する方法と、CLI コマンドの出力をファイルに格納する方法について説明します。

出力をファイルへリダイレクト

コマンド出力をファイルへリダイレクトするには、`-of` 引数を使用します。`-of` 引数は、ファイルの完全パスを引数として取ります。

たとえば、以下のコマンドは、出力を `hostFile` ファイルに書き込みます。

```
cr_cli -cmd hdb.h.add -of hostFile -u user-name  
-p password -name myhost -tID NM:roxhost
```

コマンドの実行後、`hostFile` には、出力が detail 書式 (`hdb.h.add` コマンドのデフォルト出力書式) で追加されます。

`-of` 引数は `-cmd` で指定されたコマンドの直後に指定する必要があります。

ファイルからの入力の読み取り

ファイルからデータを読み取るには、ファイル名の前に接頭辞 `file:` を付けて、ファイルを識別します。

たとえば、開始したばかりのセッションのセッション ID を保存し、あとでコマンド認証に使用する場合は、まずセッション ID の RPC 直列化表現を `session` という名前のファイルに保存します。

```
cr_cli -cmd udb.login -u user-name -p password -o serialized > session
```

次に、`session` 内のセッション ID を別のコマンドへの入力として使用します。

```
cr_cli -cmd hdb.h.la -s file:session
```

ファイルからの CLI 引数の読み取り

入力ファイルから CLI 引数を読み取るには、識別のため、入力ファイルに接頭辞 `exp:` を付ける必要があります。まず、CLI に渡す情報をファイルに保存します。引数は、コマンドが要求する順に、1 行に 1 つずつ入力してください。

次に、ファイルに指定した引数をコマンドに渡します。

コマンド引数を指定するには、たとえば、file1.txt ファイルと file2.txt ファイルを exp: と組み合わせて使用します。

file1.txt の内容は次のとおりです。

```
hdb.h.la
-u
user-name
exp:file2.txt
```

file2.txt の内容は次のとおりです。

```
-p
password
```

この 2 つのファイルに記述されたコマンドを実行するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd exp:file1.txt
```

CLI コマンドの出力書式

CLI コマンドの出力書式は調整可能です。CLI コマンドの出力書式を指定するには、-cmd で指定したコマンドの直後に -o 引数を指定します。

たとえば、hdb.h.la コマンドの出力書式として string を指定するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd hdb.h.la -o string -u user-name -p password
```

すべての CLI コマンドで使用できる標準出力書式は次のとおりです。

raw	コマンドごとに、結果の内部文字列表現を生成する
string	簡潔な出力を生成する
serialized	XML 直列化テキスト出力を生成する。

この引数は、別のスクリプトに情報を渡すときに使用する。この書式の構造は変更される可能性があるため、書式の構造に依存しないように注意すること

sink	出力を破棄する。
------	----------

UNIX システムでは、出力を /dev/null にリダイレクトする

detail	詳細情報を表示する。この書式は、コマンドによっては使用できない場合がある
--------	--------------------------------------

出力書式の指定を省略した場合、デフォルトの出力書式が使用されます。コマンドのデフォルトの出力書式を確認するには、次のコマンドを実行します。

```
cr_cli -cmd command -h
```

出力書式の変更

ファイルに書き込まれたコマンド出力書式を変更するには、`reformat.util` コマンドを使用します。`reformat.util` コマンドは、指定の出力ファイルからデータを読み取り、このデータに指定の出力書式を設定します。

たとえば、ホストを作成し、`hdb.h.add` コマンドの出力を `hostFile` ファイルに `serialized` 書式で保存したとします。

```
cr_cli -cmd hdb.h.add -o serialized -u user-name -p password -name myhost  
-tID NM:roxhost > hostFile
```

この出力の書式を `hdb.detail` に変更する場合は、`util.reformat` コマンドを使用します。

```
cr_cli -cmd util.reformat -o hdb.detail -u user-name -p password  
-self file:hostFile
```

コマンドの出力書式が、次のように変更されます。

```
ID: 010010000204-1027365659275-00170-1199101891  
Name: myhost  
Description:  
Virtual: false  
Hidden: false  
Type ID: 010010001024-00000000000000-00001-0000000004  
Attributes:  
<Table is empty>  
Applications:  
<Table is empty>
```

コマンド行インタフェースの実行

CLI コマンドを1つずつ実行するときは、`cr_cli` ツールを使用します。このツールは、CLI を単一行コマンドモードで呼び出します。

単一行コマンドモードでは、コマンドの入力が1つずつ受け付けられます。先に入力されたコマンドが完了するまで、次の入力パラメータは受け付けられません。このモードでは、`Command Line Execution Client` はコマンド履歴を保持しません。

`cr_cli` コマンドをファイルに格納し、シェルスクリプトから呼び出すことができます。この機能は、実行プランや比較の実行、ホストの生成など、あるタスクを何回も繰り返して実行する場合に便利です。

対話型コマンド行モードでは、シェルとして `Jython` インタプリタを使用します。このモードでは、CLI を使用すると、次のような利点が得られます。

- シェルに格納されたコマンド履歴を利用できます。
- `Jython` スクリプトから プロビジョニングソフトウェアコマンドを呼び出すことができます。
- 繰り返しの多い複雑な操作に適した、より効果的なスクリプトを作成できます。

▼ 単一コマンド CLI を実行する

手順 ● **CLI Client** のインストール先サーバーで、次のコマンドを入力します。

```
./cr_cli -cmd subsystem.object.command -u user -p password
```

▼ CLI Jython インタプリタを実行する

手順 1. **CLI Client** と `Jython` のインストール先サーバーで、**CLI Jython** インタプリタを起動します。

```
./cr_clij
```

2. スクリプトの先頭に次のコードを追加します。

```
from clui import *
app=PyCLUI()
app.execStr(CLI command)
App.close()
```

`app=PyCLUI()` の指定で、CLI が呼び出されます。`App.close()` 呼び出しで、この `Jython` クラスのインスタンスが削除されます。

コマンド行ヘルプの利用

CLI に関する一般的なヘルプを表示するには、次のように入力します。

```
cr_cli -help
```

特定のコマンドのヘルプを表示するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd command -h
```

コマンドの説明テキストでは、次の記号で、引数が必須であるかオプションであるかを区別しています。

[O] 引数はオプションです。

[R] 引数は必須です。

[O/R] 引数は通常はオプションですが、必須になることもあります。

この場合、引数がいつ必要になるかについてのヘルプが表示されます。

以下に、例として `hdb.h.add` コマンドのヘルプを示します。

```
-u [O/R]: The user username for authentication: String
-p [O/R]: The user password for authentication: String
-s [O/R]: The session ID for authentication: SessionID
-name: The host name: String
-desc [O]: The host description: String
-tID: The ID of the host type: HostTypeID
-attr [O/R]: The host attributes; required if the host type requires
them: Hashtable
```

この例では、必須の引数は、`-name` と `-tID` のほか、認証引数 `-u` および `-p`、または `-s` だけです。新しいホストが、ホスト属性を必要とするホストタイプである場合は、`-attr` 引数も必須になります。

`-h` を使ってヘルプを呼び出した場合、必須引数を識別する記号、`[R]` は使用されません。必須引数は、特別な記号なしで表示されます。

CLI コマンドの一覧

使用可能なコマンドを一覧表示するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd -l
```

同じコマンド接頭辞を持つコマンドを一覧表示するときは、その接頭辞の後ろにワイルドカード * を指定します。場合によっては、* の前にエスケープ文字としてバックスラッシュ (\) を入力するか、コマンド名の部分を二重引用符で囲む必要があります。たとえば、hdb コマンドを一覧表示するには、次のように入力します。

```
cr_cli -cmd -l "hdb.*"
```

CLI コマンドは、以下のカテゴリにグループ分けされています。

- cat - カテゴリ
- cdb - コンポーネントデータベース
- cfg - 構成ジェネレータ
- cmp - 比較エンジン
- fdb - フォルダリポジトリ
- hdb - ホストリポジトリ
- net - ネットワーク操作
- pdb - プランリポジトリ
- pe - プラン実行
- plg - プラグインリポジトリ
- rule - 通知規則
- udb - ユーザーリポジトリ
- util - その他のユーティリティ

第 2 章

cat:カテゴリを管理するコマンド

この章では、カテゴリの管理に必要なコマンドについて説明します。

カテゴリを使って、次の情報を分類できます。

- プラン
- コンポーネント
- 比較

cat コマンドの概要

以下の表に、カテゴリ管理用の CLI コマンドの概要を示します。

表 2-1 cat コマンドの概要

コマンド	説明
cat.add	新しいカテゴリを追加する
cat.del	指定されたカテゴリを削除する
cat.mod	カテゴリを変更する
cat.la	定義済みの全カテゴリを一覧表示する

cat .add

このコマンドは、リポジトリに新しいカテゴリを追加します。カテゴリには、名前と説明が割り当てられます。

表 2-2 cat.add コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
name	[R]	文字列	カテゴリ名
desc	[R]	文字列	カテゴリの説明
result		カテゴリ	新しいカテゴリオブジェクト

cat.del

このコマンドは、指定されたカテゴリを削除します。カテゴリを削除しても、カテゴリ内のオブジェクト (コンポーネント、プランなど) が削除されるわけではありません。

表 2-3 cat.del コマンドの引数

引数		クラス	説明
ID	[R]	CategoryID	カテゴリインスタンス ID

cat.mod

このコマンドは、指定されたカテゴリを変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 2-4 cat.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	CategoryID	カテゴリインスタンス ID
name	[O]	文字列	新しいカテゴリ名
desc	[O]	文字列	新しいカテゴリの説明
result		カテゴリ	変更後のカテゴリ

cat.la

このコマンドは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに定義されているすべてのカテゴリを一覧表示します。

表 2-5 cat.la コマンドの結果

結果	クラス	説明
result	カテゴリ	カテゴリインスタンス

第 3 章

cdb:コンポーネントを管理する CLI コマンド

この章では、コンポーネントとチェックインジョブの管理に必要なコマンドについて説明します。

- 29 ページの「cdb コマンドの概要」
- 30 ページの「cdb.c:コンポーネントの管理」
- 36 ページの「cdb.ic:インストール済みのコンポーネントの管理」
- 37 ページの「cdb.vs:変数設定の管理」
- 40 ページの「cdb.ssr:システムサービス ref コマンド」
- 42 ページの「cdb.ctr:コンポーネントタイプのコマンド」
- 45 ページの「cdb.rsrc:コンポーネントの管理」
- 54 ページの「cdb.cj:チェックインジョブの管理」

cdb コマンドの概要

以下に、コンポーネント管理のための CLI コマンドセットを示します。

表 3-1 コンポーネント管理のための CLI コマンドセット

CLI 接頭辞	コマンドセットの説明
cdb.c	コンポーネントを管理するためのコマンド
cdb.ic	インストール済みコンポーネントの情報を取得するためのコマンド
cdb.vs	変数設定オブジェクトを管理するためのコマンド
cdb.ssr	システムサービス ref オブジェクトを管理するためのコマンド

表 3-1 コンポーネント管理のための CLI コマンドセット (続き)

CLI 接頭辞	コマンドセットの説明
cdb.ctr	コンポーネントタイプの ref オブジェクトを管理するためのコマンド
cdb.rsrc	閲覧可能なコンポーネントを管理するためのコマンド
cdb.cj	コンポーネントチェックインジョブを制御/監視するためのコマンド

この章では、コマンドセットごとに、すべてのコマンドについて説明します。

cdb.c:コンポーネントの管理

cdb.c コマンドでは、一般的なコンポーネント管理処理を行うことができます。

表 3-2 コンポーネントを管理する CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.c.ci	閲覧不可のコンポーネントおよびコンポーネントモデルをチェックインする
cdb.c.co	コンポーネントをチェックアウトする
cdb.c.la	すべてのコンポーネントの全バージョンを一覧表示する
cdb.c.lo	コンポーネントの詳細情報を一覧表示する
cdb.c.lv	コンポーネントの全バージョンを一覧表示する
cdb.c.mod	コンポーネントを変更する
cdb.c.mv	コンポーネントを移動する、または名前を変更する
cdb.c.sc	コンポーネントに 1 つ以上のカテゴリを割り当てる
cdb.c.sh	コンポーネントを表示する、または非表示にする
cdb.c.del	コンポーネントを削除する

cdb.c.ci

特定のコンポーネントをチェックインするには、`cdb.c.ci` コマンドを使用します。このコマンドは、必ず以下のシナリオで使用します。

- 閲覧不能コンポーネント (untyped コンポーネントまたは container コンポーネント) をチェックインする必要がある場合。

閲覧可能コンポーネントをチェックインする必要がある場合は、`cdb.rsrc.ci` コマンドを使用します。コマンドとコマンド引数については、[45 ページ](#)の「`cdb.rsrc.ci`」を参照してください。

- コンポーネントモデル (コンポーネントの XML 表現) をチェックインする必要があるが、参照先コンポーネントやソースオブジェクトはチェックインしない場合。この機能は、制御ブロックや変数値の更新時に使用できます。

新しいバージョンのコンポーネントと、そのすべての参照先コンポーネントを作成する場合は、`cdb.rsrc.ci` コマンドを使用します。コマンドとコマンド引数については、[45 ページ](#)の「`cdb.rsrc.ci`」を参照してください。

表 3-3 `cdb.c.ci` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
<code>path</code>	[R]	<code>InputStreamWrapper</code>	XML コンポーネント定義の場所
<code>major</code>	[O]	ブール型	新しいメジャーバージョンとしてチェックインするかどうか。デフォルトは <code>false</code>
<code>import</code>	[O]	ブール型	変数設定をインポートするかどうか。デフォルトは <code>true</code>
<code>hidePrev</code>	[O]	ブール型	古いコンポーネントを非表示にするかどうか。デフォルトは <code>true</code>
<code>result</code>		コンポーネント	新しいコンポーネント

cdb.c.co

このコマンドは、コンポーネントをチェックアウトし、指定されたコンポーネントを XML 書式で出力します。

表 3-4 cdb.c.co コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
comp	[R]	ComponentID	表示するコンポーネント XML の ID
result		コンポーネント	XML 書式で出力されたコンポーネント

cdb.c.la

このコマンドは、すべてのコンポーネントの全バージョンを一覧表示します。

表 3-5 cdb.c.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示のコンポーネントを表示するかどうか。デフォルトは false
cat	[O]	CategoryID	適用するカテゴリフィルタ。デフォルトは「all」
folderID	[O]	FolderID	親フォルダ ID。デフォルトはルートフォルダ (NM: /)
flatView	[O]	ブール型	結果をフラットビューで表示するかどうか。デフォルトは true
result		SummaryComponent-Array	コンポーネント

cdb.c.lo

このコマンドは、指定されたコンポーネントの詳細を一覧表示します。

表 3-6 cdb.c.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	表示するコンポーネントの ID

表 3-6 cdb.c.lo コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果	構文	説明
result	コンポーネント	コンポーネント

cdb.c.lv

このコマンドは、指定されたコンポーネントの全バージョンを一覧表示します。

表 3-7 cdb.c.lv コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
comp	[R]	ComponentID
result	SummaryComponent-Array	コンポーネントの全バージョン

cdb.c.mod

このコマンドは、コンポーネントを変更し、新しいバージョンのコンポーネントを生成します。

表 3-8 cdb.c.mod コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
comp	[R]	ComponentID
label	[O]	文字列
desc	[O]	文字列

表 3-8 cdb.c.mod コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
rva	[O]	StringArray	コンポーネントのバージョン。バージョン番号は、推奨バージョンには「#」、デフォルトバージョンには「+」、最新バージョンには「-」を使用する。すべてのコンポーネントで最新バージョンを使用する場合は、この引数を省略する。 この引数は、複合コンポーネントにのみ適用可能
hidePrev	[O]	ブール型	古いバージョンを非表示にするかどうか。デフォルトは true
result		コンポーネント	コンポーネント

cdb.c.mv

このコマンドは、コンポーネントを移動するか、コンポーネントの名前を変更します。

表 3-9 cdb.c.mv コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	移動する、または名前を変更するコンポーネントの ID
fullname	[R]	文字列	コンポーネントの新しい完全名 (パス + 名前)

cdb.c.sc

このコマンドは、コンポーネントにカテゴリセットを関連付けます。

表 3-10 cdb.c.sc コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	影響を受けるコンポーネントの ID
catIDs	[R]	CategoryIDSet	このコンポーネントに関連付けるカテゴリの ID
all	[O]	ブール型	全バージョンのコンポーネントを変更するかどうか。デフォルトは false

cdb.c.sc

このコマンドは、コンポーネントにカテゴリセットを関連付けます。

表 3-11 cdb.c.sc コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	影響を受けるコンポーネントの ID
catIDs	[R]	CategoryIDSet	このコンポーネントに関連付けるカテゴリの ID
all	[O]	ブール型	全バージョンのコンポーネントを変更するかどうか。デフォルトは false

cdb.c.del

このコマンドは、コンポーネントを削除します。

表 3-12 cdb.c.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	削除するコンポーネントの ID

表 3-12 cdb.c.del コマンドの引数 (続き)

引数		構文	説明
all	[O]	ブール型	全バージョンのコンポーネントを削除するかどうか。デフォルトは false

cdb.ic:インストール済みのコンポーネントの管理

cdb.ic コマンドは、すでにホストにインストールされているコマンドの情報を取得します。

表 3-13 インストール済みコンポーネントを管理する CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.ic.lbc	コンポーネントがインストールされている全ホストを一覧表示する
cdb.ic.lbh	特定のホストにインストールされている全コンポーネントを一覧表示する
cdb.ic.vs.lo	指定の生成された変数設定オブジェクトの詳細を一覧表示する

cdb.ic.lbc

このコマンドは、特定のコンポーネントがインストールされている全ホストを一覧表示します。

表 3-14 cdb.ic コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
comp	[R]	ComponentID	コンポーネント ID
result		InstalledComponent-BeanArray	インストール済みコンポーネント

cdb.ic.lbh

このコマンドは、特定のホストにインストールされている全コンポーネントを一覧表示します。

表 3-15 cdb.ic.lbh コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
host	[R]	HostID	ホスト ID
cat	[O]	CategoryID	適用するカテゴリ フィルタ。デフォルト は all
result		InstalledComponent- BeanArray	インストール済みコン ポーネント

cdb.ic.vs.lo

このコマンドは、特定の生成された変数設定オブジェクトの詳細を一覧表示します。

表 3-16 cdb.ic.vs.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	InstalledComponentID	生成された変数設定を 表示するインストール 済みコンポーネントの ID
result		GeneratedVariable- Settings	生成された変数設定

cdb.vs:変数設定の管理

cdb.vs コマンドは、コンポーネントの変数設定を管理します。

表 3-17 変数設定を管理する CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.vs.add	新しい変数設定オブジェクトを追加する
cdb.vs.del	変数設定オブジェクトを削除する
cdb.vs.imp	あるコンポーネントから別のコンポーネント に変数設定オブジェクトをインポートする
cdb.vs.la	特定のコンポーネントの変数設定オブジェク トをすべて一覧表示する

表 3-17 変数設定を管理する CLI コマンド (続き)

コマンド	説明
cdb.vs.lo	特定の変数設定オブジェクトの詳細を一覧表示する
cdb.vs.mod	変数設定オブジェクトを変更する

cdb.vs.add

このコマンドは、新しい変数設定オブジェクトを追加します。

表 3-18 cdb.vs.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	結果
comp	[R]	ComponentID	コンポーネント
name	[R]	文字列	新しい名前
vars	[R]	Hashtable	新しいオーバーライド値
result		ComponentVariable-Settings	新しいコンポーネント変数設定

cdb.vs.del

このコマンドは、既存の変数設定オブジェクトを削除します。

表 3-19 cdb.vs.del コマンドの引数

引数		構文	説明
vs	[R]	ComponentVariable-SettingsID	削除するコンポーネント変数設定の ID

cdb.vs.imp

このコマンドは、あるコンポーネントから別のコンポーネントへ変数設定をインポートします。

表 3-20 cdb.vs.imp コマンドの引数

引数		構文	説明
src	[R]	ComponentID	変数設定のインポート元コンポーネント
dst	[R]	ComponentID	変数設定のインポート先コンポーネント

cdb.vs.la

このコマンドは、特定のコンポーネントのすべての変数設定オブジェクトを一覧表示します。

表 3-21 cdb.vs.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
comp	[R]	ComponentID	コンポーネント
result		ComponentVariable-SettingsArray	コンポーネント変数設定

cdb.vs.lo

このコマンドは、特定の変数設定オブジェクトの詳細を一覧表示します。

表 3-22 cdb.vs.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
vs	[R]	ComponentVariable-Settings	表示するコンポーネント変数設定
result		ComponentVariable-Settings	コンポーネント変数設定

cdb.vs.mod

このコマンドは、既存の変数設定オブジェクトを変更します。

表 3-23 cdb.vs.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
vs	[R]	ComponentVariable-Settings	コンポーネント変数設定
name	[O]	文字列	新しい名前
vars	[O]	Hashtable	新しいオーバーライド値
result		ComponentVariable-Settings	変更後のコンポーネント変数設定

cdb.ssr:システムサービス ref コマンド

表 3-24 システムサービス ref CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.ssr.add	システムサービス ref を追加する
cdb.ssr.mod	既存のシステムサービス ref を変更する。省略した場合、現在の値が保持される
cdb.ssr.del	システムサービス ref を削除する
cdb.ssr.lo	システムサービス ref を取得する
cdb.ssr.la	すべてのシステムサービス ref を一覧表示する

cdb.ssr.add

このコマンドは、新しいシステムサービス ref を追加します。

表 3-25 cdb.ssr.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	システムサービス ref 名
desc	[O]	文字列	システムサービス ref の説明

表 3-25 cdb.ssr.add コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
icn	[R]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントの名前
icv	[R]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントのバージョン
icp	[O]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントのインストールパス
result		SystemServiceRef	新しいシステムサービス ref

cdb.ssr.mod

このコマンドは、既存のシステムサービス ref を変更します。省略した場合、現在の値が保持されます。

表 3-26 cdb.ssr.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ssr	[R]	SystemServiceRef	ターゲットシステムサービス ref
name	[O]	文字列	システムサービス ref 名
desc	[O]	文字列	システムサービス ref の説明
icn	[O]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントの名前
icv	[O]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントのバージョン
icp	[O]	文字列	参照先のインストール済みコンポーネントのインストールパス
result		SystemServiceRef	変更後のシステムサービス ref

cdb.ssr.del

このコマンドは、システムサービス ref を削除します。

表 3-27 cdb.ssr.del コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	SystemServiceRefID	システムサービス ref の ID

cdb.ssr.lo

このコマンドは、システムサービス ref を取得します。

表 3-28 cdb.ssr.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	SystemServiceRef	ターゲットシステムサービス ref
result		SystemServiceRef	システムサービス ref

cdb.ssr.la

このコマンドは、すべてのシステムサービス ref を一覧表示します。

表 3-29 cdb.ssr.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
result		SystemServiceRefArray	システムサービス ref

cdb.ctr:コンポーネントタイプのコマンド

表 3-30 コンポーネントタイプ ref の CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.ctr.add	新しいコンポーネントタイプ ref を追加する

表 3-30 コンポーネントタイプ ref の CLI コマンド (続き)

コマンド	説明
cdb.ctr.mod	既存のコンポーネントタイプ ref を変更する。省略した場合、現在の値が保持される
cdb.ctr.del	コンポーネントタイプ ref を削除する
cdb.ctr.lo	コンポーネントタイプ ref を取得する
cdb.ctr.la	すべてのコンポーネントタイプ ref を一覧表示する

cdb.ctr.add

このコマンドは、新しいコンポーネントタイプ ref を追加します。

表 3-31 cdb.ctr.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref 名
desc	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref の説明
order	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref の順序
group	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref グループ
indentLevel	[R]	文字列	コンポーネントタイプのインデントレベル
compref	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref 内のコンポーネント ref の名前
compver	[R]	文字列	コンポーネントタイプ ref 内のコンポーネント ref のバージョン
result		ComponentTypeRef	新しいコンポーネントタイプ ref

cdb.ctr.mod

既存のコンポーネントタイプ ref を変更します。省略した場合、現在の値が保持されます。

表 3-32 cdb.ctr.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ctr	[R]	ComponentTypeRef	ターゲットのコンポーネントタイプ ref
name	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref 名
desc	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref の説明
order	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref の順序
group	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref グループ
indentLevel	[O]	文字列	コンポーネントタイプのインデントレベル
compver	[O]	文字列	コンポーネントタイプ ref 内のコンポーネント ref のバージョン
result		ComponentTypeRef	変更後のコンポーネントタイプ ref

cdb.ctr.del

このコマンドは、コンポーネントタイプ ref を削除します。

表 3-33 cdb.ctr.del コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentTypeRefID	コンポーネントタイプ ref の ID

cdb.ctr.lo

このコマンドは、コンポーネントタイプ ref を取得します。

表 3-34 cdb.ctr.lo コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
ID	[R]	ComponentTypeRef ターゲットのコンポーネントタイプ ref
result	ComponentTypeRef	コンポーネントタイプ ref

cdb.ctr.la

このコマンドは、すべてのコンポーネントタイプ ref を一覧表示します。

表 3-35 cdb.ctr.la コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
result	ComponentTypeRef-Array	コンポーネントタイプ ref

cdb.rsrc:コンポーネントの管理

cdb.rsrc コマンドでは、一般的なコンポーネント管理処理を行うことができます。

表 3-36 コンポーネントを管理する CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.rsrc.ci	特定のコンポーネントとそのリソースをリポジトリにチェックインする
cdb.rsrc.cib	バッチファイルに記載されているすべてのコンポーネントをチェックインする
cdb.rsrc.co	指定のコンポーネントをチェックアウトする
cdb.rsrc.rci	コンポーネントを再度チェックインする
cdb.rsrc.showopts	特定の型でサポートされているチェックインオプションを表示する

cdb.rsrc.ci

特定のコンポーネントとそのソースオブジェクトをチェックインするには、`cdb.rsrc.ci` コマンドを使用します。このコマンドは、必ず以下のシナリオで使用します。

- 閲覧可能コンポーネント (たとえば file や Weblogic EJB) をチェックインする必要がある場合。
 閲覧不能コンポーネントをチェックインする必要がある場合は、`cdb.c.ci` コマンドを使用します。コマンドとコマンド引数については、31 ページの「`cdb.c.ci`」を参照してください。
- 単純コンポーネントのソースオブジェクトをチェックインする必要がある場合。
- 閲覧可能な複合コンポーネントの参照先コンポーネントをチェックインする必要がある場合。

`cdb.rsrc.ci` コマンドの呼び出しは、「チェックインジョブ」と見なされ、チェックインジョブを管理する CLI コマンドで管理されます。たとえば、どの `cdb.rsrc.ci` コマンドが実行中であるのかを確認する場合は、`cdb.cj.la` コマンドを実行し、現在のチェックインジョブをすべて一覧表示します。`cdb.rsrc.ci` から返される `compCheckInID` 値を `cdb.cj.lo` の引数に指定して、特定のチェックインジョブのステータス情報を得ることもできます。

表 3-37 `cdb.rsrc.ci` コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
<code>src</code>	[R]	文字列	チェックインするローカルファイルまたはディレクトリ
<code>dst</code>	[R]	文字列	チェックインに使用するコンポーネント名
<code>type</code>	[R]	文字列	コンポーネントタイプ
<code>platform</code>	[O]	HostSetID	コンポーネントのプラットフォーム
<code>desc</code>	[O]	文字列	コンポーネントの説明
<code>major</code>	[O]	ブール型	メジャーとマイナーのどちらのバージョン番号を増分するか。デフォルトは <code>false</code>
<code>config</code>	[O]	ブール型	コンポーネントが構成ファイルであるかどうか。デフォルトは <code>false</code>
<code>hidePrev</code>	[O]	ブール型	前回のコンポーネントを非表示にするかどうか。デフォルトは <code>true</code>

表 3-37 cdb.rsrc.ci コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
includeOwners	[O]	ブール型	所有者情報を含めるかどうか。デフォルトは true
includeGroups	[O]	ブール型	グループ情報を含めるかどうか。デフォルトは true
addTo	[O]	ブール型	既存のファイルを全部置き換えて新しいコンポーネントを作成するのではなく、チェックインするファイルを既存のファイルに追加して新しいバージョンのコンポーネントを作成するかどうか。
hostID	[O]	HostID	ローカルホストの ID
redun	[O]	ブール型	冗長チェックを適用するかどうか。デフォルトは true
pickerName	[O]	文字列	使用するコンポーネントピッカーの名前。デフォルトは null (デフォルトピッカー)
extraOpts	[O]	Hashtable	タイプに追加するオプションの名前と値。extraOpts 引数では、config、includeOwners、includeGroups、addTo、redun は指定できない。これらの値を指定するには、この表に記載されている同等のコマンド行オプションを使用する必要がある
result		CompCheckInID	このコンポーネントチェックインジョブの ID

cdb.rsrc.cib

このコマンドは、「バッチチェックイン」コマンドです。バッチファイルに記載されているすべてのコンポーネントをチェックインします。

表 3-38 cdb.rsrc.cib コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
batchfile	[R]	文字列	チェックインするコンポーネントのリストが記載されたバッチファイルの名前
haltonerror	[O]	ブール型	true の場合、最初のエラーでバッチ実行が停止する。デフォルトは true
pwdrelative	[O]	ブール型	true の場合、ユーザーディレクトリからの相対パスが使用される。それ以外の場合は、バッチファイルの格納場所からの相対パスが使用される。デフォルトは false
result		文字列	操作の完了を知らせるメッセージ

バッチファイルの概要

rsrc.cib は、チェックインするコンポーネントが 1 行に 1 つずつ記載されたバッチファイルを利用します。バッチファイルを利用すると、大量のコンポーネントを 1 回のコマンド実行でチェックインできます。

バッチファイル内の各行は、単一のコンポーネントとしてチェックインされる、ローカルマシン上の単一のコンポーネントに対応しています。各行は、いくつかのフィールドをパイプ (|) で区切った形式になっています。一部のフィールドはオプションで、省略可能です。オプションフィールドを省略する場合も、rsrc.cib が各フィールドを正しく識別できるように、次のフィールドとの間にパイプ (|) を挿入する必要があります。

バッチファイルにはコメントを挿入できます。先頭にシャープ (#) が付いている行がコメント行になります。

以下の表では、バッチファイルの行の構文について説明します。

表 3-39 バッチファイル内の行の構文

内容	オプション必須
ローカルマシン上のコンポーネントの格納場所	必須
チェックイン時にコンポーネントに割り当てられる名前	必須
コンポーネントタイプ	必須
コンポーネントが表すプラットフォーム。 「NM: <platform_name>」の書式で、HostSetID と表現される (<platform_name> は表 3-40 に記載されているプラットフォーム名)	オプション
コンポーネントの説明	オプション
このファイルが構成ファイルであるかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは false)
チェックインに「2.0」のようなメジャーバージョン番号を割り当てるかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは false)
一番最近のバージョンのコンポーネントを非表示にするかどうかを決めるブール値	オプション (デフォルトは true)
アクセス権情報の格納時に所有者情報を含めるかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは true)
アクセス権情報の格納時にグループ情報を含めるかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは true)
既存のファイルを全部置き換えて新しいバージョンを作成するのではなく、チェックインするファイルを既存のファイルに追加して新しいバージョンを作成するかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは true)
このコンポーネントをホストからチェックインする場合、そのホストのホスト ID	オプション
冗長チェックを適用するかどうかを示すブール値	オプション (デフォルトは true)
使用するピッカーの名前 (オプション。デフォルトは null で、デフォルトピッカーを使用する)	

表 3-39 バッチファイル内の行の構文 (続き)

内容	オプション必須
<p>文字列書式で表されたハッシュテーブル。そのタイプのエクスポートでサポートされる追加オプションが含まれている。extraOpts 引数では、以下のブール値は指定できない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ファイルが構成テンプレートであるかどうか ■ 所有者情報を含めるかどうか ■ グループ情報を含めるかどうか ■ チェックインするファイルを既存のファイルに追加するかどうか ■ 冗長チェックを行うかどうか <p>これらの変数を指定するには、同等のバッチファイル書式オプションを使用します。</p>	

以下の表に、バッチファイルの各行の 4 番目のフィールドで、コンポーネントのプラットフォームを指定するために使用できる名前を一覧表示します。

表 3-40 プラットフォームの名前

プラットフォーム名	説明
any	N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアでサポートされる任意のプラットフォーム
AIX - any version	IBM AIX 5.1 または IBM AIX 5.2
AIX 5.1	IBM AIX 5.1
AIX 5.2	IBM AIX 5.2
Solaris - any version	Solaris™ 6、Solaris 7、または Solaris 8 リリース
Solaris 7	Solaris 7 リリース
Solaris 8	Solaris 8 リリース
Solaris 9	Solaris 9 リリース
Solaris 10	Solaris 10 リリース
Windows 2000 Server	Microsoft Windows 2000 Server
Red Hat Linux	Red Hat Advanced Server 2.1

バッチファイル内の行の例

この例では、ローカルファイル `home/etc/myfile` を、構成ファイルではなく Solaris 7 プラットフォームのコンポーネントタイプファイルとして、「this is my file」という説明とともに、コンポーネント名 `mypath/mycomponentname` でチェックインします。この場合、バッチファイルに次のような行を入力します。

```
/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7|this is my file
```

チェックインするファイルが構成ファイルである場合は、行末にブール値のフィールドを追加し、`true` を指定します。次に例を示します。

```
/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7|this is my file|true
```

`mycomponent` の説明を省略する場合は、この行を次のように変更します (パイプ区切りが 2 つ並んでいる点に注目)。

```
/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7||true
```

コンポーネントをメジャーバージョン (「2.0」のようなバージョン番号。「1.7」などは不可) としてチェックインするには、メジャーバージョンチェックインのブール値のフィールドに `true` を追加します。

```
/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7||true|true
```

チェックイン後も古いコンポーネントを非表示にしない場合は、上の行を次のように変更します (最後のフィールドに `false` が追加されている点に注目)。

```
/home/myfile|mypath/mycomponentname|file|NM:Solaris 7||true|true|false
```

アクセス許可情報を格納するとき所有者情報やグループ情報を含めるかどうかを指定するオプションのブール値にも、これと同じ書式上の規則が適用されます。

バッチファイルの構文

N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアは、バッチファイルの構文解析時に、次の規則を適用します。

- パス名が入るフィールドでは、スラッシュ (通常のスラッシュとバックスラッシュの両方) は常に、ネイティブファイルシステム上で使用されている規則に従って変換されます。
- ファイルのクラスタを視覚的に区分するために、空行を使用できます。
- フィールドの先頭または末尾の空白文字は削除できません。
- バッチファイルでは、絶対パスと相対パスの両方を使用できます。デフォルトでは、相対パスの基準はバッチファイルの格納場所になります。`-pwdrelative` フラグを使ってこの設定を無効にした場合、相対パスの基準は現在の作業ディレクトリになります。

呼び出し

テキストファイルを使ったバッチチェックイン処理は、`cdb.src.cib` コマンドで呼び出します (“cib” は「check in batch (バッチチェックイン)」の頭文字)。

```
cdb.rsrc.cib -batchfile [batchfile location] [-haltonerror true|false]
[-pwdrelative true|false]
```

`cdb.rsrc.cib` コマンドは、コンポーネントのチェックインの前に、ファイルの構文チェックを行います。続いて、チェックインする予定のローカルファイルがすべて揃っていることを確認します。このどちらかのプロセスでエラーを検出した場合、`cdb.rsrc.cib` はエラーを報告し、実行を停止します。このとき、ブール引数 `--haltonerror` の設定は考慮されません。

haltonerror 引数

コマンド行にオプションの `-haltonerror` 引数を指定して (デフォルトは `false`)、エラーが検出されたファイル以降のファイルのチェックインを停止するかどうかを指定することができます。このブール引数は、`cdb.rsrc.cib` が予備エラーチェック (前の節で説明済み) を実行したあとのエラーにしか適用されません。

pwdrelative 引数

コマンド行にオプションの `-pwdrelative` プロビジョン (デフォルトは `false`) を指定して、バッチファイル内の相対パスの基準を現在の作業ディレクトリにするか (`pwdrelative = true`)、バッチファイルの格納場所にするか (`pwdrelative = false`) を指定することができます。

バッチファイル処理

バッチファイル処理は、トランザクション処理ではありません。したがって、バッチファイル処理に失敗したり、処理が途中で停止したりしても、問題の発生以前に正しくチェックインされたコンポーネントは、チェックインされた状態を保持します。これらのコンポーネントのチェックインが取り消されることはありません。

同時に複数のバッチチェックイン処理を行なった場合、その調停は行われません。2つのバッチチェックイン処理が、同時に実行を開始する同じコンポーネントセットをターゲットにしている場合、一方のバッチファイルの処理が完了するまでもう一方の処理を抑制することはできません。近似タイミングにより、両方のバッチファイルが交互に処理されます。

cdb.rsrc.co

このコマンドは、指定されたコンポーネントをチェックアウトし、リポジトリからローカルマシンへコピーを転送します。

表 3-41 cdb.rsrc.co の引数と結果

引数/結果		構文	説明
src	[R]	文字列	転送するコンポーネントの名前
v	[R]	文字列	コンポーネントのバージョン
dst	[R]	文字列	コンポーネントを配置する場所
result		文字列	操作の完了を知らせるメッセージ

cdb.rsrc.rci

このコマンドは、コンポーネントを再度チェックインします。チェックインジョブへの割り込みが発生した場合は、このコマンドを使って再度チェックインします。このとき、チェックインするコンポーネントのバージョン番号を人為的に大きくする必要はありません。

表 3-42 cdb.rsrc.rci コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	再度チェックインするコンポーネントの ID
result		CompCheckInID	結果のチェックインジョブの ID

cdb.rsrc.showopts

このコマンドは、特定のコンポーネントタイプでサポートされるチェックインオプションを表示します。

表 3-43 cdb.rsrc.showopts コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
type	[R]	文字列	コンポーネントタイプ
result		BrowserInfo[]	エクスポータでサポートされるコンポーネントピッカーの名前とオプション

cdb.cj:チェックインジョブの管理

コンポーネントをチェックインすると、チェックインジョブが生成されます。チェックインジョブは、コンポーネントが完全にリポジトリに格納され、バージョン番号を割り当てられた時点で完了します。cdb.cj コマンドでは、チェックインジョブを制御または監視することができます。

表 3-44 チェックインジョブの管理と監視のための CLI コマンド

コマンド	説明
cdb.cj.la	すべてのチェックインジョブを一覧表示する
cdb.cj.lo	チェックインジョブのステータスと詳細を一覧表示する
cdb.cj.stop	チェックインジョブを停止する

cdb.cj.la

このコマンドは、チェックインジョブを一覧表示します。チェックインジョブとは、HTML ユーザーインターフェイスや、rsrc.ci のような CLI チェックインコマンドでチェックインされるコンポーネントのことです。このコマンドで一覧表示されるのは、現在アクティブなすべてのジョブと、最近完了したジョブ 20 個です。

表 3-45 cdb.cj.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	CompCheckInId[]	チェックインジョブ ID のリスト

cdb.cj.lo

このコマンドは、指定されたチェックインジョブのステータスと詳細を表示します。ジョブの指定には、compCheckInID を使用します。この値は、コンポーネントのチェックイン時に cdb.rsrc.ci から返されます。

表 3-46 cdb.cj.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	compCheckInID	チェックインジョブの ID
result		compStatus	指定されたチェックインジョブ

注 - このコマンドには、チェックインジョブの ID を指定する必要があります。このため、コマンド引数として「NM:」の書式で ID を指定することはできません。compCheckInID の構文の詳細については、[付録 A](#) を参照してください。

cdb.cj.stop

このコマンドは、指定されたチェックインジョブを停止します。

表 3-47 rsrc.cj.stop コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	CompCheckInID	チェックインジョブの ID
result		CompStatus	指定されたチェックインジョブ

注 - このコマンドには、チェックインジョブの ID を指定する必要があります。このため、コマンド引数として「NM:」の書式で ID を指定することはできません。CheckInJobID の構文の詳細については、[付録 A](#) を参照してください。

第 4 章

cfg:構成を生成する CLI コマンド

この章では、構成の生成に必要なコマンドについて説明します。

cfg コマンドの概要

cfg コマンドは、構成を生成します。

表 4-1 cfg コマンドの概要

コマンド	説明
cfg.gen	入力の構成を生成する

cfg.gen

このコマンドは、入力の構成を生成します。

表 4-2 cfg.gen コマンドの引数

引数		構文	説明
path	[R]	ReaderWrapper	入力ソース
host	[R]	ホスト	ターゲットホスト
comp	[R]	コンポーネント	ターゲットコンポーネント

表 4-2 cfg.gen コマンドの引数 (続き)

引数		構文	説明
vs	[O]	ComponentVariable-Settings	ターゲットのオーバーライド変数設定

第 5 章

cmp:比較を実行する CLI コマンド

この章では、比較の実行に必要なコマンドについて説明します。

cmp コマンドの概要

cmp コマンドは、比較を制御します。

表 5-1 cmp コマンドの概要

コマンド名	説明
cmp.dj.add	新しい比較を追加 (開始) する
cmp.dj.del	新しい比較を削除 (停止) する
cmp.dj.la	実行中の比較と完了した比較を一覧表示する
cmp.dj.lo	実行中の比較を検出して、ステータスを表示する
cmp.ds.add	指定された比較に比較設定を追加する
cmp.ds.la	すべての比較設定を一覧表示する
cmp.ds.lo	指定された比較設定を検出する
cmp.ds.del	指定された比較から比較設定を削除する
cmp.ds.sc	比較設定とカテゴリを関連付ける
cmp.ds.mod	指定された比較設定を変更する

cmp.dj.add

このコマンドは、新しい比較を追加 (開始) します。

表 5-2 cmp.dj.add コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceSettings	比較設定
result		DifferenceJobID	新しい比較の ID

cmp.dj.del

このコマンドは、実行中の比較を削除 (停止) します。

表 5-3 cmp.dj.del コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceJobID	実行中の比較の ID
result		ブール型	比較が正常に停止した場合は true

cmp.dj.la

このコマンドは、実行中の比較と完了した比較を一覧表示します。

表 5-4 cmp.dj.la コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
max	[O]	整数	一覧表示するジョブの最大数。実行中の比較の数が指定された数より多い場合は無視される
result		RunningDiffBeanArray	実行中の比較全部と完了した比較の一部

cmp.dj.lo

このコマンドは、実行中の比較を検出し、進捗状況を表示します。

表 5-5 cmp.dj.lo コマンドの引数

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceJobID	比較の ID
old	[O]	ブール型	古いメッセージを表示するかどうか。デフォルトは false
new	[O]	ブール型	新しいメッセージをポーリングするかどうか。デフォルトは true

cmp.ds.add

このコマンドは、新しい比較設定を追加します。スタイル、レベル、スコープの組み合わせによっては、オプションの引数が必要な場合があります。

表 5-6 cmp.ds.add コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
name	[R]	文字列	比較設定の名前
desc	[O]	文字列	設定の説明
style	[R]	スタイル	設定のスタイル
level	[R/O]	レベル	設定のレベル
scope	[R/O]	スコープ	設定のスコープ
srchID	[R/O]	HostID	設定のソースホストの ID
dsthID	[R/O]	HostID	設定のターゲットホストの ID
dsthsID	[R/O]	HostSetID	設定のターゲットホストセットの ID
srcdir	[R/O]	文字列	設定のソースディレクトリ
dstdir	[R/O]	文字列	設定のターゲットディレクトリ
ignp	[R/O]	StringArray	設定を無視するパス
cRef	[R/O]	InstalledComponent-Ref	設定のコンポーネント参照

表 5-6 cmp.ds.add コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		クラス	説明
tout	[R]	TimeInterval	設定のタイムアウト
fsl	[O]	ブール型	シンボリックリンクをたどるかどうか。デフォルトは true
incd	[O]	ブール型	設定のサブディレクトリフラグを含むかどうか。デフォルトは false
srcP	[R/O]	ReaderWrapper	設定のソース準備ミニプラン
dstP	[R/O]	ReaderWrapper	設定のターゲット準備ミニプラン
srcC	[R/O]	ReaderWrapper	設定のソースクリーンアップミニプラン
dstC	[R/O]	ReaderWrapper	設定のターゲットクリーンアップミニプラン
usePlans	[R/O]	ブール型	ミニプランを実行するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true
dstUseSrcP	[R/O]	ブール型	ターゲットでソース準備ミニプランを使用するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true
dstUseSrcC	[R/O]	ブール型	ターゲットでソースクリーンアップミニプランを使用するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true
result		DifferenceSettings	新しい比較設定

cmp.ds.la

このコマンドは、すべての比較設定を一覧表示します。

表 5-7 cmp.ds.la コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
cat	[O]	CategoryID	適用するカテゴリ フィルタ。デフォルト は「all」
result		DifferenceSettings- Array	すべての比較設定

cmp.ds.lo

このコマンドは、指定された比較設定を検出します。

表 5-8 cmp.ds.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceSettingsID	比較設定の ID
result		DifferenceSettings	比較設定

cmp.ds.del

このコマンドは、比較設定オブジェクトを削除します。

表 5-9 cmp.ds.del コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceSettingsID	比較設定の ID

cmp.ds.mod

このコマンドは、既存の設定をテンプレートとして利用して、新しい比較設定を追加します。省略された引数は、可能であれば現在の値を保持します。

表 5-10 cmp.ds.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
ID	[R]	DifferenceSettingsID	テンプレートとなる比 較設定の ID

表 5-10 cmp.ds.mod コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		クラス	説明
desc	[O]	文字列	設定の説明
style	[O]	スタイル	設定のスタイル
level	[R/O]	レベル	設定のレベル
scope	[R/O]	スコープ	設定のスコープ
srchID	[R/O]	HostID	設定のソースホストの ID
dsthID	[R/O]	HostID	設定のターゲットホストの ID
dsthID	[R/O]	HostSetID	設定のターゲットホストセットの ID
srcdir	[R/O]	文字列	設定のソースディレクトリ
dstdir	[R/O]	文字列	設定のターゲットディレクトリ
ignp	[R/O]	StringArray	設定を無視するパス
cRef	[R/O]	InstalledComponent-Ref	設定のコンポーネント参照
tout	[O]	TimeInterval	設定のタイムアウト
fsl	[O]	ブール型	シンボリックリンクをたどるかどうか。デフォルトは true。この引数を省略した場合、現在の値が保持される
incd	[O]	ブール型	サブディレクトリがあるかどうかを示す設定フラグ
srcP	[R/O]	ReaderWrapper	設定のソース準備ミニプラン
dstP	[R/O]	ReaderWrapper	設定のターゲット準備ミニプラン
srcC	[R/O]	ReaderWrapper	設定のソースクリーンアップミニプラン
dstC	[R/O]	ReaderWrapper	設定のターゲットクリーンアップミニプラン

表 5-10 cmp.ds.mod コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		クラス	説明
usePlans	[R/O]	ブール型	ミニプランを実行するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true。この引数を省略した場合、現在の値が保持される
dstUseSrcP	[R/O]	ブール型	ターゲットでソース準備ミニプランを使用するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true。この引数を省略した場合、現在の値が保持される
dstUseSrcC	[R/O]	ブール型	ターゲットでソースクリーンアップミニプランを使用するかどうかを示す設定フラグ。デフォルトは true。この引数を省略した場合、現在の値が保持される
result		DifferenceSettings	新しい比較設定

cmp.ds.sc

このコマンドは、比較設定とカテゴリを関連付けます。

表 5-11 cmp.ds.sc コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	DifferenceSettingsID	影響を受ける比較設定の ID
catIDs	[R]	CategoryIDSet	この比較設定と関連付けるカテゴリの ID

第 6 章

fdb:フォルダを管理する CLI コマンド

この章では、フォルダを管理するコマンドについて説明します。

fdb コマンドの概要

以下の表に、フォルダ管理用の CLI コマンドの概要を示します。

表 6-1 fdb コマンドの概要

コマンド	説明
<code>fdb.f.add</code>	フォルダを作成する
<code>fdb.f.mod</code>	フォルダを変更する
<code>fdb.f.mv</code>	フォルダを移動または名前を変更する
<code>fdb.f.del</code>	フォルダを削除する
<code>fdb.f.la</code>	全フォルダを一覧表示する
<code>fdb.f.lo</code>	単一のフォルダの詳細を一覧表示する
<code>fdb.f.co</code>	フォルダの所有者グループを変更する
<code>fdb.f.mp</code>	フォルダのアクセス許可を変更する

`fdb.f.add`

このコマンドは、フォルダを作成します。

表 6-2 fdb.f.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
fullname	[R]	文字列	フォルダの完全名。 フォルダのパスと フォルダ名で構成される
desc	[O]	文字列	フォルダの説明
result		フォルダ	新しいフォルダ

fdb.f.mod

このコマンドは、指定されたフォルダを変更します。

表 6-3 fdb.f.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	フォルダインスタンス ID
desc	[O]	文字列	フォルダの説明
result		フォルダ	変更後のフォルダ

fdb.f.mv

このコマンドは、フォルダを移動するか、フォルダの名前を変更します。フォルダの内容も移動します。

表 6-4 fdb.f.mv コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	FolderID	移動する、または名前 を変更するフォルダの ID
fullname	[R]	文字列	新しいフォルダの完全 名。フォルダのパスと フォルダ名で構成される

fdb.f.del

このコマンドは、フォルダとその内容を削除します。

表 6-5 fdb.f.del コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	削除するフォルダの ID
result		なし	

fdb.f.la

このコマンドは、全フォルダを一覧表示します。

表 6-6 fdb.f.la コマンドの引数

引数		構文	説明
folderID	[O]	FolderID	親フォルダ ID。デフォルトはルートフォルダ (NM: /)
flatView	[O]	ブール型	結果をフラットビューで (親から再帰的に) 一覧表示するかどうか。デフォルトは true

fdb.f.lo

このコマンドは、単一のフォルダの詳細を一覧表示します。

表 6-7 fdb.f.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	フォルダの ID
result		フォルダ	フォルダ

fdb.f.co

このコマンドは、フォルダの所有者グループを変更します。

表 6-8 fdb.f.co コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	フォルダ ID
groupID	[R]	GroupID	グループ ID
result		フォルダ	変更後のフォルダ

fdb.f.mp

このコマンドは、フォルダのアクセス許可を変更します。

表 6-9 fdb.f.mp コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	FolderID	フォルダ ID
groupID	[R]	GroupID	グループ ID
write	[O]	ブール型	グループがフォルダの write アクセス許可を持つかどうか。デフォルトは false。true の場合、checkin-current と autorun のアクセス許可も true に設定される
checkin-current	[O]	ブール型	グループがフォルダの checkin-current アクセス許可を持つかどうか。デフォルト値は、write アクセス権の値と同じ。グループのアクセス許可の更新中にこの値が指定されていないと、値はデフォルト値に戻る

表 6-9 fdb.f.mp コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
autorun	[O]	ブール型	グループがフォルダの autorun アクセス許可を持つかどうか。デフォルト値は、write アクセス権の値と同じ。グループのアクセス許可の更新中にこの値が指定されていないと、値はデフォルト値に戻る
execute	[O]	HostSetID	execute アクセス許可が適用される hostSetID。空の値を指定した場合、すべてのホストセットの execute アクセス許可が除去される。すべてのホストセットにこのアクセス許可を設定するには、クライアントで allhosts という標識値を使用する。なお、この標識値は、ブラウザインタフェースでは「汎用セット」になる
result		フォルダ	変更後のフォルダ

第 7 章

hdb:ホストを管理する CLI コマンド

この章では、ホストの管理に必要なコマンドについて説明します。

概要

以下に、ホスト管理のための CLI コマンドセットを示します。

表 7-1 ホスト管理のための CLI コマンドセット

CLI 接頭辞	コマンドセットの説明
hdb.a	アプリケーションインスタンスを管理するコマンド (Remote Agent や Local Distributor などのアプリケーション)
hdb.h	ターゲットホストを管理するコマンド
hdb.hr	ホスト検索を管理するコマンド
hdb.hs	ホストセットを管理するコマンド
hdb.ht	ホストタイプを管理するコマンド

この章では、コマンドセットごとに、すべてのコマンドについて説明します。

hdb.a:アプリケーションインスタンスの管理

hdb.a コマンドファミリーは、プロビジョニングソフトウェアのアプリケーション (Remote Agent、Local Distributor など) のインスタンスを制御します。

表 7-2 hdb.a コマンドの概要

コマンド名	説明
hdb.a.add	新しいアプリケーションインスタンスを追加する
hdb.a.del	アプリケーションインスタンスを削除する
hdb.a.la	すべてのアプリケーションインスタンスを一覧表示する
hdb.a.lo	特定のアプリケーションインスタンスの情報を検出する
hdb.a.mod	既存のアプリケーションインスタンスを変更する
hdb.a.clear	アプリケーションインスタンスのリソースキャッシュを消去する

hdb.a.add

このコマンドは、新しいアプリケーションインスタンスを追加し、特定の N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアアプリケーションの特定の構成を Master Server に登録します。

表 7-3 hdb.a.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
hID	[R]	HostID	新しいインスタンスが格納されているホストの ID
type	[R]	AppType	アプリケーション型 (RA LD)
pID	[R]	AppInstanceID	親アプリケーション ID

表 7-3 hdb.a.add コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
ip	[R]	文字列	アプリケーションの IP アドレス (x.y.z.w)
port	[O]	整数	アプリケーションポート (ssh には不要)
conn	[R]	ConnectionType	接続型 (raw ssh ssl)
param	[O]	文字列	パラメータ
result		UIApplicationUpdate	新しいアプリケーションインスタンスと関連警告

注 - 接続型が ssh のアプリケーションで、-port 引数を省略したり、ポートを 0 に設定した場合は、デフォルトの ssh ポートが使用されます。

hdb.a.del

このコマンドは、Master Server の内部ファイルからアプリケーションインスタンスを削除します。いったん削除されたアプリケーションインスタンスは、Master Server によって認識されなくなります。

注 - アプリケーションインスタンスを削除しても、アプリケーションインスタンスがインストールされたマシン上の N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアファイルは削除されません。

表 7-4 hdb.a.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	AppInstanceID	アプリケーションインスタンス ID

hdb.a.la

このコマンドは、Master Server によって認識されているすべてのアプリケーションインスタンスを一覧表示します。

このコマンドでは、引数は使用できません。

表 7-5 hdb.a.la コマンドの戻り値

結果	結果の構文	説明
result	AppInstanceArray	アプリケーションインスタンス

hdb.a.lo

このコマンドは、指定されたアプリケーションインスタンスに関する情報を検出します。

表 7-6 hdb.a.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	AppInstanceID	アプリケーションインスタンス ID
result		AppInstance	アプリケーションインスタンス

hdb.a.mod

このコマンドは、既存のアプリケーションインスタンスの指定された属性を変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 7-7 hdb.a.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	AppInstanceID	アプリケーションインスタンス ID
pID	[O]	AppInstanceID	新しい親アプリケーション ID
ip	[O]	文字列	アプリケーションの新しい IP アドレス (x.y.z.w)
port	[O]	整数	新しいアプリケーションポート
conn	[O]	ConnectionType	新しい接続型 (raw ssh ssl)
param	[O]	文字列	新しいパラメータ

表 7-7 hdb.a.mod コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果	構文	説明
result	UIAppInstanceUpdate	変更後のアプリケーションインスタンスと関連警告

注 - 接続型が ssh のアプリケーションで、-port 引数を省略したり、ポートを 0 に設定した場合は、デフォルトの ssh ポートが使用されます。

hdb.a.clear

このコマンドは、アプリケーションインスタンスのリソースキャッシュを消去します。

表 7-8 hdb.a.clear コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
ID	[R]	AppInstanceID アプリケーションインスタンス ID

hdb.h:ホストの管理

hdb.h コマンドは、ターゲットホストを管理します。ターゲットホストとは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアで管理されているアプリケーションの物理ホストと仮想ホストのことです。

表 7-9 hdb.h コマンドの概要

コマンド	説明
hdb.h.add	新しいホストを追加する
hdb.h.del	ホストを削除する
hdb.h.la	すべてのホストを一覧表示する
hdb.h.lo	ホストに関する情報を検出する
hdb.h.lq	一致するホストを照会する

表 7-9 hdb.h コマンドの概要 (続き)

コマンド	説明
hdb.h.mod	既存のホストを変更する

hdb.h.add

このコマンドは、ホストリポジトリに新しいホストを追加します。

表 7-10 hdb.h.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	ホスト名
desc	[O]	文字列	ホストの説明
tlID	[R]	HostTypeID	ホストタイプの ID
attr	[O]	Hashtable	ホストの属性
hide	[O]	ブール型	ホストを非表示にするかどうか。デフォルトは false
pID	[O]	HostID	仮想ホストの場合は親ホストの ID、物理ホストの場合は空
result		ホスト	新しいホスト

注 - -attr 引数は優先指定を設定するだけです。明示的に指定されていない属性は、デフォルト値を保持します。

hdb.h.del

このコマンドは、ホストを削除します。

表 7-11 hdb.h.del コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostID	ホスト ID

hdb.h.la

このコマンドは、リポジトリ内のすべてのホストを一覧表示します。

表 7-12 hdb.h.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示のホストを表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostArray	ホスト

hdb.h.lo

このコマンドは、リポジトリからホストに関する情報を検出します。

表 7-13 hdb.h.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostID	ホスト ID
result		ホスト	ホスト

hdb.h.lq

このコマンドは、指定された条件またはフィルタに一致するホストを照会します。

注 - このコマンドを呼び出すときは、クエリー (-query) かフィルタ (-filt または -phys) を指定する必要があります。

表 7-14 hdb.h.lq コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
query	[O]	AttributeCriteriaList	照会条件
filt	[O]	AppTypeCriteria	アプリケーション型のフィルタ
phys	[O]	PhysicalCriteria	物理ホストまたは仮想ホストに限定するフィルタ
sh	[O]	ブール型	非表示のホストを表示するかどうか。デフォルトは false

表 7-14 hdb.h.lq コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果	構文	説明
result	HostArray	ホスト

hdb.h.mod

このコマンドは、既存のホストの指定された属性を変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 7-15 hdb.h.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostID	ホスト ID
name	[O]	文字列	ホスト名
desc	[O]	文字列	ホストの説明
tlID	[O]	HostTypeID	ホストタイプの ID
attr	[O]	Hashtable	ホストの属性
hide	[O]	ブール型	ホストを非表示にするかどうか
pID	[O]	HostID	仮想ホストの場合は親ホストの ID、物理ホストの場合は「<null>」
result		ホスト	変更後のホスト

注 - 値を変更する属性は、-attr 引数で指定します。明示的に指定されていない属性は、デフォルト値を保持します。または、デフォルト値にリセットされます。

hdb.hr:ホスト検索の管理

概要

hdb.hr コマンドは、ホスト検索を管理します。

表 7-16 hdb.hr コマンドの概要

コマンド	説明
hdb.hr.add	新しいホスト検索を追加する
hdb.hr.del	ホスト検索を削除する
hdb.hr.la	すべてのホスト検索を一覧表示する
hdb.hr.le	ホスト検索によって返されるすべてのホストを一覧表示する
hdb.hr.lo	ホスト検索に関する情報を検出する
hdb.hr.mod	既存のホスト検索を変更する

hdb.hr.add

このコマンドは、新しいホスト検索を追加し、リポジトリにホスト検索の名前と検索条件を入力します。

表 7-17 hdb.hr.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	ホスト検索の名前
desc	[O]	文字列	ホスト検索の説明
q	[R/O]	AttributeCriteriaList	動的なクエリー。filt と phys が指定されていない場合は必須
filt	[R/O]	AppTypeCriteria	検索を特定のホストタイプに制限するフィルタ。q と phys が指定されていない場合は必須
phys	[R/O]	PhysicalCriteria	物理ホストまたは仮想ホストに制限するフィルタ。q と filt が指定されていない場合は必須
hide	[O]	ブール型	検索を非表示にするかどうか。デフォルトは false
result		HostSearch	新しいホスト検索

hdb.hr.del

このコマンドは、ホスト検索を削除します。

表 7-18 hdb.hr.del コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
ID	[R]	HostSearchID	ホスト検索の ID

hdb.hr.la

このコマンドは、リポジトリ内に定義されているすべてのホスト検索を一覧表示します。

表 7-19 hdb.hr.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示の検索を表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostSearchArray	ホスト検索

hdb.hr.le

このコマンドは、指定されたホスト検索の条件に一致するすべてのホストを一覧表示します。一覧表示されるのは、hdb.hr.le の実行時にこれらの条件に一致するホストです。

表 7-20 hdb.hr.le コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSearchID	ホスト検索の ID
sh	[O]	ブール型	非表示の検索を表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostArray	ホスト

hdb.hr.lo

このコマンドは、指定されたホスト検索に関する情報を検出します。

表 7-21 hr.hr.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSearchID	ホスト検索の ID
result		HostSearch	ホスト検索

hdb.hr.mod

このコマンドは、既存のホスト検索を変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 7-22 hdb.hr.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSearchID	ホスト検索の ID
name	[O]	文字列	ホスト検索の名前
desc	[O]	文字列	ホスト検索の説明
q	[O]	AttributeCriteriaList	動的クエリー
filt	[O]	VarValueCriteria	検索を特定のホストタイプに制限するオプションフィルタ
phys	[O]	PhysicalCriteria	物理ホストまたは仮想ホストに限定するフィルタ
hide	[O]	ブール型	検索を非表示にするかどうか
result		HostSearch	変更後のホスト検索

hdb.hs:ホストセットの管理

hdb.hs コマンドは、ホストセットを管理します。

表 7-23 hdb.hs コマンドの概要

コマンド	説明
hdb.hs.add	新しいホストセットを追加する
hdb.hs.del	ホストセットを削除する
hdb.hs.la	すべてのホストセットを一覧表示する
hdb.hs.le	ホストセットに含まれるすべてのホストを一覧表示する
hdb.hs.lo	ホストセットに関する情報を検出する
hdb.hs.mod	既存のホストセットを変更する

hdb.hs.add

このコマンドは、リポジトリに新しいホストセットを追加します。

表 7-24 hdb.hs.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	ホストセットの名前
desc	[O]	文字列	ホストセットの説明
hIDs	[O]	HostIDSet	静的メンバーホストの ID
sIDs	[O]	HostSetIDSet	ホストサブセットの ID
rIDs	[O]	HostSearchIDSet	ホスト検索の ID
hide	[O]	ブール型	ホストセットを非表示にするかどうか。デフォルトは false
result		HostSet	新しいホストセット

hdb.hs.del

このコマンドは、ホストセットを削除します。

表 7-25 hdb.hs.del コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
ID	[R]	HostSetID	ホスト ID

hdb.hs.la

このコマンドは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに定義されているすべてのホストセットを一覧表示します。

表 7-26 hdb.hs.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
hide	[O]	ブール型	非表示のホストセットを表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostSetArray	ホストセット

hdb.hs.le

このコマンドは、指定されたホストセットに含まれるすべてのホストを一覧表示します。

表 7-27 hdb.hs.le コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
ID	[R]	HostSetID	ホストセット ID
hide	[O]	ブール型	非表示のホストセットを表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostArray	ホスト

hdb.hs.lo

このコマンドは、指定されたホストセットを検出します。

表 7-28 hdb.hs.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSetID	ホストセット ID
result		HostSet	ホストセット

hdb.hs.mod

このコマンドは、既存のホストセットを変更します。省略した場合、現在の値が保持されます。

表 7-29 hdb.hs.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostSetID	ホストセット ID
名前	[O]	文字列	ホストセットの名前
desc	[O]	文字列	ホストセットの説明
hIDs	[O]	HostIDSet	静的メンバーホストの ID
sIDs	[O]	HostSetIDSet	ホストサブセットの ID
rIDs	[O]	HostSearchIDSet	ホスト検索の ID
hide	[O]	ブール型	ホストセットを非表示にするかどうか
result		HostSet	変更後のホストセット

hdb.ht:ホストタイプの管理

概要

hdb.ht コマンドは、ホストタイプを管理します。

表 7-30 hdb.ht コマンドの概要

コマンド	説明
<code>hdb.ht.add</code>	新しいホストタイプを追加する
<code>hdb.ht.del</code>	ホストタイプを削除する
<code>hdb.ht.la</code>	すべてのホストタイプを一覧表示する
<code>hdb.ht.lo</code>	ホストタイプに関する情報を検出する
<code>hdb.ht.mod</code>	既存のホストタイプを変更する

hdb.ht.add

このコマンドは、新しいホストタイプを追加し、このホストタイプに名前を割り当て、このホストタイプの属性を定義します。

表 7-31 hdb.ht.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
<code>name</code>	[R]	文字列	ホストタイプの名前
<code>desc</code>	[O]	文字列	ホストタイプの説明
<code>attr</code>	[R]	HostTypeVarList	ホストタイプの属性
<code>hide</code>	[O]	ブール型	ホストタイプを非表示にするかどうか。デフォルトは <code>false</code>
<code>result</code>		HostType	新しいホストタイプ

hdb.ht.del

このコマンドは、ホストタイプを削除します。

表 7-32 hdb.ht.del コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
<code>ID</code>	[R]	HostTypeID	ホストタイプ ID

hdb.ht.la

このコマンドは、定義済みのすべてのホストタイプ (デフォルトのホストタイプ `crhost` を含む) を一覧表示します。

表 7-33 hdb.ht.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示のホストタイプを表示するかどうか。デフォルトは false
result		HostTypeArray	ホストタイプ

hdb.ht.lo

このコマンドは、ホストタイプを検出します。

表 7-34 hdb.ht.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostTypeID	ホストタイプ ID
result		HostType	ホストタイプ

hdb.ht.mod

このコマンドは、既存のホストタイプを変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 7-35 hdb.ht.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	HostTypeID	ホストタイプ ID
name	[O]	文字列	ホストタイプの名前
desc	[O]	文字列	ホストタイプの説明
attr	[O]	HostTypeVarList	ホストタイプの属性
hide	[O]	ブール型	ホストタイプを非表示にするかどうか
result		HostType	変更後のホストタイプ

第 8 章

net:ネットワーク操作を実行する CLI コマンド

この章では、ネットワーク操作の実行に必要なコマンドについて説明します。

net コマンドの概要

net コマンドは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアアプリケーションに関係のあるネットワークタスクを実行します。

表 8-1 net コマンドの概要

コマンド	説明
net.gencfg	N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアアプリケーション向けの転送構成ファイルを生成する
net.ping	TCP/IP ping コマンドを実行して、Remote Agent や Local Distributor との接続をチェックする
net.traceroute	IP traceroute ユーティリティを使って、Remote Agent や Local Distributor への経路を検索する

注 - net コマンドには、ユーザーセッションは必要ありません。

net.gencfg

このコマンドは、アプリケーションの転送構成ファイルを生成します。

表 8-2 net.gencfg コマンドの引数

引数		クラス	説明
appID	[R]	AppInstanceID	転送構成を生成する必要があるアプリケーションインスタンスのアプリケーションインスタンス ID

net.ping

このコマンドは、TCP/IP ping コマンドを実行して、Remote Agent または Local Distributor との接続を確認します。

表 8-3 net.ping コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
D	[R]	CRAddress	[DNS-host-name ipAddress : port] という書式で ping する Remote Agent または Local Distributor のアドレス
result		PingResult	ping コマンドが正常に実行されたことを示すメッセージ。コマンドの実行に失敗した場合はエラーの詳細

net.traceroute

このコマンドは、IP traceroute コマンドを使って、Remote Agent または Local Distributor への経路を検索します。

表 8-4 net.traceroute コマンドの引数と結果

引数/結果		クラス	説明
D	[R]	CRAddress	[DNS-host-name ipAddress : port] という書式で経路を検索する Remote Agent または Local Distributor のアドレス

表 8-4 net.traceroute コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果	クラス	説明
result	UITraceResult	traceroute コマンドが正常に実行されたことを示すメッセージ。コマンドの実行に失敗した場合はエラーの詳細

第 9 章

pdb: プランを管理する CLI コマンド

この章では、プランの管理に必要なコマンドについて説明します。

pdb コマンドの概要

pdb コマンドを使って、プランを管理することができます。プランは、コンポーネントやホストで実行される操作を指定します。

表 9-1 pdb コマンドの概要

コマンド	説明
pdb.p.ci	新しいバージョンのプランをチェックインする
pdb.p.co	プランをチェックアウトする (プランを XML で出力する)
pdb.p.genplan	プランを生成し、XML で出力する
pdb.p.la	すべてのプランの最新バージョンを一覧表示する
pdb.p.lo	プランを表示する
pdb.p.del	実行プランを削除する
pdb.p.lv	指定されたプランのすべてのバージョンを一覧表示する
pdb.p.mv	プランを移動する、または名前を変更する

表 9-1 pdb コマンドの概要 (続き)

コマンド	説明
pdb.p.sh	プランを表示する、または非表示 (隠す) にする
pdb.p.sc	プランにカテゴリを関連付ける

pdb.p.ci

XML から新しいバージョンのプランをチェックインする

表 9-2 pdb.p.ci コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
path	[R]	InputStreamWrapper	XML 書式のプラン
major	[O]	ブール型	新しいメジャーバージョンとしてチェックインするかどうか。デフォルトは <code>false</code>
hidePrev	[O]	ブール型	古いプランを隠すかどうか。デフォルトは <code>true</code>
result		ExecutionPlan	新しい実行プラン

pdb.p.co

このコマンドは、プランを XML 書式で `stdout` に出力します。

表 9-3 pdp.p.co コマンドの引数

引数		構文	説明
plan	[R]	ExecutionPlan	実行プラン

pdb.p.genplan

このコマンドは、プランを生成し、XML として出力します。

表 9-4 pdb.p.genplan コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ComponentID	プランを生成するコンポーネントの ID
pt	[R]	NamedBlockType[]	手続き型のリスト install、uninstall、および call
pn	[R]	StringArray	このプランで使用する手続き名のリスト

pdb.p.la

このコマンドは、すべてのプランの最新バージョンを一覧表示します。

表 9-5 pdb.p.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	隠されているプランを表示するかどうか。デフォルトは false
cat	[O]	CategoryID	適用するカテゴリフィルタ。デフォルトは「all」
folderID	[O]	FolderID	親フォルダ ID。デフォルトはルートフォルダ (NM: /)
flatView	[O]	ブール型	結果をフラットビューで表示するかどうか。デフォルトは true
result		ExecutionPlanArray	実行プラン

pdb.p.lo

このコマンドは、実行プランを表示します。

表 9-6 pdb.p.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	表示するプランの ID

表 9-6 pdb.p.lo コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果	構文	説明
result	ExecutionPlan	実行プラン

pdb.p.del

このコマンドは、実行プランを削除します。

表 9-7 pdb.p.del コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明	
ID	[R]	ExecutionPlanID	削除するプランの ID
all	[O]	ブール型	全バージョンのプランを削除するかどうか。デフォルトは false

pdb.p.lv

このコマンドは、指定されたプランの全バージョンを一覧表示します。

表 9-8 pdb.p.lv コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明	
ID	[R]	ExecutionPlanID	実行プランの ID
result	ExecutionPlanArray		実行プラン

pdb.p.mv

このコマンドは、プランを移動するか、プランの名前を変更します。

表 9-9 pdb.p.mv コマンドの引数

引数	構文	説明	
ID	[R]	ExecutionPlanID	移動する、または名前を変更するプランの ID
fullname	[R]	文字列	プランの新しい完全名 (パス + 名前)

pdb.p.sh

このコマンドは、プランを隠したり、表示したりします。

表 9-10 pdb.p.sh コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	隠す、または表示するプランの ID
hide	[R]	ブール型	プランを非表示に設定するかどうか
all	[O]	ブール型	全バージョンのプランを変更するかどうか。デフォルトは false

pdb.p.sc

このコマンドは、プランにカテゴリセットを関連付けます。

表 9-11 pdb.p.sc コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	カテゴリの割り当て先のプランの ID
catIDs	[R]	CategoryIDSet	このプランに関連付けるカテゴリの ID
all	[O]	ブール型	プランの全バージョンのカテゴリを更新するかどうか。デフォルトは false

第 10 章

pe:プランを実行する CLI コマンド

この章では、プランの実行に必要なコマンドについて説明します。

pe コマンドの概要

pe コマンドは、プランの実行、停止、および監視のためのツールを提供します。

表 10-1 pe コマンドの概要

コマンド	説明
pe.h.prep	ホストのセットを準備する
pe.p.en	<execNative> または <execJava> 手順の出力を表示する
pe.p.la	実行中のプランと完了したプランを一覧表示する
pe.p.lo	実行中のプランや完了したプランの情報を一覧表示する
pe.p.del	完了したプランの実行履歴を削除する
pe.p.lp	プランのサブプランとターゲットを一覧表示する
pe.p.run	プランを実行する
pe.p.stop	現在実行中のプランを停止する
pe.pi.lo	プランの実行に使用するパラメータを一覧表示する

pe.h.prep

このコマンドは、ホストのセットを準備します。

表 10-2 pe.h.prep コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
tar	[R]	HostIDSet	準備するホスト ID を コンマで区切ったリス ト
result		TaskID	準備プラン実行 ID

pe.p.en

このコマンドは、<execNative> または <execJava> 手順の出力を表示します。

表 10-3 pe.p.en コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	StepID	表示するプラン内の手 順。pe.p.lo コマン ドの出力から収集でき る
output	[O]	「so」または「se」	stdout または stderr だけを表示する。デ フォルトは stdout だ けを表示
result		UIExecNativeOutput	手順の出力

pe.p.la

このコマンドは、実行中のプランと完了したプランを一覧表示します。

表 10-4 pe.p.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
max	[O]	整数	一覧表示するプランの 最大数。実行中のプラ ンの数が指定された数 より多い場合は無視さ れる

表 10-4 pe.p.la コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
plan	[O]	文字列	結果をこの名前のプランに限定
result		RunningPlan-BeanArray	実行中のプラン全部と完了したプランの一部

pe.p.lo

このコマンドは、実行中または実行が完了したプランのステータスを報告し、各手順の StepID を表示します。

表 10-5 pe.p.lo コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	TaskID	表示するプラン実行の ID
old	[O]	ブール型	古いメッセージを表示するかどうか。デフォルトは false
new	[O]	ブール型	新しいメッセージをポーリングするかどうか。デフォルトは true

pe.p.del

このコマンドは、完了したプランの実行履歴を削除します。

表 10-6 pe.p.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	TaskID	削除するプラン実行の ID

pe.p.lp

このコマンドは、プランのサブプランとターゲットを一覧表示します。指定されたプランがまず表示されます。

表 10-7 pe.p.lp コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	ExecutionPlanID	実行プランの ID
result		SubplanPrompt-Array	サブプランとターゲットの配列

pe.p.run

このコマンドは、プランを実行します。プランプロンプト変数がある場合は、これにより、ユーザーに応答が求められます。

表 10-8 pe.p.run コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
PID	[R]	ExecutionPlanID	実行する実行プランの ID
tar	[R]	HostIDArrayArray	サブプランプロンプトによってプランとその各サブプランが実行されるそれぞれのホストまたはホストセット
comp	[O/R]	StringArrayArray	プランやサブプランの一部としてインストールするコンポーネントバージョンの選択。サブプランプロンプト内のコンポーネントセレクトタによって要求される。デフォルトでは、バージョン番号か「+」を使用する。推奨の場合は「#」、最新の場合は「-」を使用する。コンポーネントバージョンがない場合は指定しない

表 10-8 pe.p.run コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
vs	[O/R]	StringArrayArray	選択されたコンポーネントバージョンで使用される変数設定の選択。変数設定名か「+」(デフォルト)を使用する。変数設定がない場合は指定しない
po	[O]	ブール型	プリフライトを実行する場合にかぎり true
pdp	[O]	ブール型	詳細プリフライトを実行する場合は true。デフォルトは false
hr1	[O]	整数	同時に実行されるホスト数の上限。デフォルトはサーバー構成ファイルで設定される
pto	[R]	TimeInterval	プランの最大実行時間
nto	[R]	TimeInterval	ネイティブ呼び出しの最大実行時間
f	[O]	ReaderWrapper	プラン変数は、ファイルまたは標準入力によって渡される。デフォルトでは標準入力を使用される
result		TaskID	プラン実行の ID

pe.p.stop

このコマンドは、実行中のプランを停止します。

表 10-9 pe.p.stop コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	TaskID	実行を停止するプランの ID
result		ブール型	プランが正常に停止された場合は true

pe.pi.lo

このコマンドは、プランの実行に使用するパラメータを一覧表示します。

表 10-10 pe.pi.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	TaskID	プラン実行の ID
result		TaskInfo	プラン実行パラメータ

第 11 章

plg:プラグインの CLI コマンド

この章では、プラグインを管理するコマンドについて説明します。

plg コマンドの概要

以下の表に、プラグイン管理用の CLI コマンドの概要を示します。

表 11-1 plg コマンドの概要

コマンド	説明
plg.p.add	ファイルシステムから新規または既存のプラグインをインポートする
plg.p.del	プラグインを削除する
plg.p.la	すべてのプラグインを一覧表示する
plg.p.lo	プラグインの詳細を一覧表示する
plg.p.mod	プラグインを変更する

plg.p.add

このコマンドは、ファイルシステムから新規または既存のプラグインをインポートします。Ctrl-C キーを押すとコマンドは終了しますが、進行中のインポートには影響はありません。

表 11-2 plg.p.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
path	[R]	InputStreamWrapper	プラグイン JAR ファイル
result		PluginID	プラグイン ID

plg.p.del

このコマンドは、プラグインを削除します。

表 11-3 plg.p.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	PluginID	プラグイン ID

plg.p.la

このコマンドは、すべてのプラグインを一覧表示します。

表 11-4 plg.p.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	PluginArray	プラグインの配列

plg.p.lo

このコマンドは、単一のプラグインに関する詳細を一覧表示します。

表 11-5 plg.p.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	PluginID	プラグイン ID
result		プラグイン	プラグイン

plg.p.mod

このコマンドは、プラグインを変更します。引数を省略した場合、現在の値が保持されます。

表 11-6 plg.p.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	PluginID	プラグイン ID
order	[O]	文字列	プラグインメニューの 順番
result		プラグイン	プラグイン

第 12 章

rule:通知のための CLI コマンド

この章では、イベント通知の管理に必要なコマンドについて説明します。

rule コマンドの概要

rule コマンドでは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアで特定の種類のイベントが発生したときに送信される電子メール通知を構成することができます。

以下の表に、通知の規則を管理する CLI コマンドの概要を示します。

表 12-1 rule コマンドの概要

コマンド	説明
rule.add	通知規則を追加する
rule.del	通知規則を削除する
rule.la	すべての通知規則を一覧表示する
rule.lo	特定の規則を検出する
rule.mod	既存の規則を変更する

rule.add

このコマンドは、電子メール通知の送信に関する新しい規則を追加します。

表 12-2 rule.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
n	[R]	文字列	規則名
D	[O]	文字列	規則の説明
tf	[O]	CriteriaShorthand	規則イベントタイプ フィルタ
mf	[O]	文字列	規則メッセージフィル タ
haf	[O]	HostIDArray	規則ホストフィルタ
hsf	[O]	HostSetID	規則ホストセット フィルタ
sf	[O]	文字列	規則重要度フィルタ。 有効な値は、INFO、 WARNING、ERROR。 また、重要度の末尾に は、この重要度以上で あることを表す「+」 が付けられている場合 がある。たとえば、 WARNING+ は WARNING または ERROR のイベントを 表している
ea	[R]	文字列	通知先の電子メールア ドレス
result		RuleMetaData	新しい規則

以下の表に、-tf 引数で渡されるキーワードを一覧します。このキーワードを使って、規則を適用するイベントのタイプを指定できます。

表 12-3 -tf 引数の CriteriaShorthand

条件の短縮形	イベント
any	任意のイベント
planStart	プランの開始
planEndAbnormal	プランの異常終了
planEndNormal	プランの正常な終了
cmpStart	比較の開始

表 12-3 -tf 引数の CriteriaShorthand (続き)

条件の短縮形	イベント
cmpEndAbnormal	比較の異常終了
cmpEndNormal	比較の正常な終了
system	任意のシステムイベント
admin	任意の管理イベント
custom	任意のカスタムイベント

rule.del

このコマンドは、指定された規則を削除します。

表 12-4 rule.del コマンドの引数

引数	構文	説明
ID	[R]	RuleID 規則 ID

rule.la

このコマンドは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに定義されているすべての規則を一覧表示します。

表 12-5 rule.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	RuleMetaDataArray	規則

rule.lo

このコマンドは、ID で指定された規則を検出します。

表 12-6 rule.lo コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
ID	[R]	RuleID 規則 ID
result	RuleMetaData	規則

rule.mod

このコマンドは、既存の規則の指定済みの属性を変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 12-7 rule.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	RuleID	規則 ID
n	[O]	文字列	規則名
D	[O]	文字列	規則の説明
tf	[O]	CriteriaShorthand	規則イベントタイプ フィルタ
mf	[O]	文字列	規則メッセージフィル タ
haf	[O]	HostIDArray	規則ホストフィルタ
hsf	[O]	HostSetID	規則ホストセット フィルタ
sf	[O]	文字列	規則重要度フィルタ
ea	[O]	文字列	通知先の電子メールア ドレス
result		RuleMetaData	変更後の規則

第 13 章

udb:ユーザーとグループを管理する CLI コマンド

この章では、ユーザーとグループの管理に必要なコマンドについて説明します。

udb コマンドの概要

以下に、ユーザーとグループの管理のための CLI コマンドセットを示します。

表 13-1 ユーザーアカウント、グループ、ログインのコマンドセット

CLI 接頭辞	コマンドセットの説明
udb.g	ユーザーグループを管理するコマンド
udb.login udb.ログアウト udb.whoami	ログインセッションを管理するコマンド
udb.p	アクセス許可を管理するコマンド
udb.u	ユーザーアカウントを管理するコマンド
udb.sv	セッション変数を管理するコマンド
udb.l	すべてのログイン構成を一覧表示するコマンド

この章では、コマンドセットごとに、すべてのコマンドについて説明します。

udb.g:ユーザーグループの管理

udb.g コマンドでは、ユーザーグループの定義、変更、削除、一覧表示を行うことができます。

表 13-2 udb.g コマンドの概要

コマンド名	説明
udb.g.add	新しいユーザーグループを追加する
udb.g.del	ユーザーグループを削除する
udb.g.la	すべてのユーザーグループを一覧表示する
udb.g.lo	指定されたユーザーグループに関する情報を検出する
udb.g.lp	指定されたグループに付与されたアクセス許可を一覧表示する
udb.g.lu	指定されたグループのメンバーユーザーを一覧表示する
udb.g.mod	既存のユーザーグループを変更する

udb.g.add

このコマンドは、新しいグループを追加します。

表 13-3 udb.g.add コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
n	[R]	文字列	新しいグループ名
D	[O]	文字列	新しいグループの説明
hostWrite	[O]	ブール型	新しいグループがホストへの書き込み権を持っているかどうか。デフォルトは false
notRuleWrite	[O]	ブール型	新しいグループが通知規則への書き込み権を持っているかどうか。デフォルトは false

表 13-3 udb.g.add コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
adminWrite	[O]	ブール型	新しいグループが「admin: users and groups;」への書き込み許可を持っているかどうか。デフォルトは false
diffWrite	[O]	ブール型	新しいグループが比較への書き込み許可を持っているかどうか。デフォルトは false
diffRun	[O]	文字列	新しいグループが比較の実行許可を持っているホストセットのホストセット ID。空の値を指定した場合、すべてのホストセットの実行許可が削除される。すべてのホストセットにこのアクセス許可を設定するには、クライアントで「allhosts」という標識値を使用する
ua	[O]	UserArray	新しいグループのユーザー
pga	[O]	GroupArray	新しいグループの親グループ
cga	[O]	GroupArray	新しいグループの子グループ
result		グループ	新しいグループ

udb.g.del

このコマンドは、指定されたグループを削除します。

注 - グループを削除しても、グループ内のユーザーアカウントは削除されません。ユーザーアカウントが分類されていたグループが削除されるだけです。

表 13-4 udb.g.del コマンドの引数

引数		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID

udb.g.la

このコマンドは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアに定義されているすべてのグループを一覧表示します。

表 13-5 udb.g.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	GroupArray	グループ

udb.g.lo

このコマンドは、指定されたグループを検出します。

表 13-6 udb.g.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID
result		グループ	グループ

udb.g.lp

このコマンドは、グループに付与されたアクセス許可を一覧表示します。

表 13-7 udb.g.lp コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID
result		PermissionArray	アクセス許可

udb.g.lu

このコマンドは、指定されたグループのメンバーを一覧表示します。

表 13-8 udb.g.lu コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID
result		UserArray	ユーザー

udb.g.mod

このコマンドは、既存のグループを変更します。省略された引数の値は変更されません。

表 13-9 udb.g.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	GroupID	グループ ID
n	[O]	文字列	新しいグループ名
D	[O]	文字列	新しいグループの説明
hostWrite	[O]	ブール型	新しいグループがホストへの書き込み許可を持っているかどうか
notRuleWrite	[O]	ブール型	新しいグループが通知規則への書き込み許可を持っているかどうか
adminWrite	[O]	ブール型	新しいグループが「admin: users and groups」への書き込み許可を持っているかどうか
diffWrite	[O]	ブール型	新しいグループが比較への書き込み許可を持っているかどうか

表 13-9 udb.g.mod コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
diffRun	[O]	文字列	新しいグループが比較の実行許可を持っているホストセットのホストセット ID。空の値を指定した場合、すべてのホストセットの実行許可が削除される。すべてのホストセットにこのアクセス許可を設定するには、クライアントで「allhosts」という標識値を使用する
ua	[O]	UserArray	新しいグループのユーザー
pga	[O]	GroupArray	新しいグループの親グループ
cga	[O]	GroupArray	新しいグループの子グループ
result		グループ	変更後のグループ

udb.u:ユーザーアカウントの管理

udb.u コマンドでは、個々のユーザーアカウントを管理できます。

表 13-10 udb.u コマンドの概要

コマンド名	説明
udb.u.add	新しいユーザーアカウントを追加する
udb.u.cp	指定されたユーザーのパスワードを変更する
udb.u.la	すべてのユーザーアカウントを一覧表示する
udb.u.lo	指定されたユーザーに関する情報を検出する
udb.u.lp	指定されたユーザーに付与されたアクセス許可を一覧表示する
udb.u.mod	指定されたユーザーアカウントを変更する

udb.u.add

このコマンドは、新しいユーザーを追加します。

表 13-11 udb.u.add コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
nu	[R]	文字列	新しいユーザーのユーザー名
np	[R]	文字列	新しいユーザーのパスワード
ng	[O]	GroupArray	新しいユーザーのユーザーグループ
hide	[O]	ブール型	ユーザーを非表示にするかどうか。デフォルトは false
loginConfig	[O/R]	文字列	このユーザー用のログイン構成。デフォルトは、可能な場合「internal」。それ以外の場合は必須
result		ユーザー	新しいユーザー

udb.u.cp

このコマンドは、指定されたユーザーのパスワードを変更します。

表 13-12 udb.u.cp コマンドの引数

引数		構文	説明
un	[R]	文字列	パスワードを変更するユーザーのユーザー名
op	[R]	文字列	古いパスワード
np	[R]	文字列	新しいパスワード

udb.u.la

このコマンドは、すべてのユーザーアカウントを一覧表示します。

表 13-13 udb.u.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
sh	[O]	ブール型	非表示のユーザーを表示するかどうか。デフォルトは false
result		UserArray	ユーザー

udb.u.lo

udb.u.lo コマンドは、指定されたユーザーを検出します。

表 13-14 udb.u.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	UserID	ユーザー ID
result		ユーザー	ユーザー

udb.u.lp

このコマンドは、ユーザーに付与されたアクセス許可を一覧表示します。

表 13-15 udb.u.lp コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	UserID	ユーザー ID
result		PermissionArray	アクセス許可

udb.u.mod

このコマンドは、既存のユーザーを変更します。省略した場合、現在の値が保持されます。

表 13-16 udb.u.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	UserID	ユーザー ID

表 13-16 udb.u.mod コマンドの引数と結果 (続き)

引数/結果		構文	説明
np	[O]	文字列	ユーザーの新しいパスワード
ng	[O]	GroupArray	ユーザーの新しいユーザーグループ
hide	[O]	ブール型	ユーザーを非表示に設定するかどうか
active	[O]	ブール型	ユーザーをアクティブに設定するかどうか
forceFlush	[O]	ブール型	true の場合、必要に応じてユーザーのセッション変数がフラッシュされる。false の場合、変更は中止される。デフォルトは false
loginConfig	[O]	文字列	ユーザーの新しいログイン構成
result		ユーザー	変更後のユーザー

udb.sv:セッション変数の管理

udb.sv コマンドでは、セッション変数を管理できます。

表 13-17 udb.sv コマンドの概要

コマンド名	説明
udb.sv.add	新しいセッション変数を追加する
udb.sv.del	セッション変数を削除する
udb.sv.fl	ユーザーのセッション変数をすべてフラッシュする
udb.sv.la	すべてのセッション変数を一覧表示する
udb.sv.lo	セッション変数に関する情報を検出する
udb.sv.mod	指定されたセッション値を変更する

表 13-17 udb.sv コマンドの概要 (続き)

コマンド名	説明
udb.sv.re	ユーザーのセッション変数をすべて暗号化しなおす

udb.sv.add

このコマンドは、新しいセッション変数を追加します。変数を持続させる場合は、-p パラメータを使ってパスワードを設定する必要があります。

注 - HTML ユーザーインタフェースにログインし、CLI を使用してセッション変数を追加する場合、変数の一覧を再表示すると、セッション変数名が値なしで表示されません。新しいセッション変数の値を表示するには、HTML ユーザーインタフェースからいったんログアウトして、再度ログインします。

表 13-18 udb.sv.add コマンドの引数と結果

引数		構文	説明
name	[R]	文字列	新しいセッション変数名
secure	[O]	ブール型	値を表示するかどうか。表示しない場合は true。デフォルトは false
desc	[O]	文字列	新しいセッション変数値の説明
value	[R]	文字列	このユーザーの新しいセッション変数値。 変数値が空文字列の場合は、- value "" と入力する
result		SessionVariable	新しいセッション変数

udb.sv.del

このコマンドは、セッション変数を削除します。

表 13-19 udb.sv.del コマンドの引数

引数		構文	説明
name	[R]	文字列	削除するセッション変数の名前

udb.sv.fl

このコマンドは、ユーザーのセッション変数をすべてフラッシュします。

表 13-20 udb.sv.fl コマンドの引数

引数		構文	説明
u	[R]	文字列	ユーザー名
p	[R]	文字列	ユーザーのパスワード

udb.sv.la

このコマンドは、すべてのセッション変数を一覧表示します。

表 13-21 udb.sv.la コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
result		SessionVariableSet	このユーザーが使用できる変数

udb.sv.lo

このコマンドは、指定されたセッション変数を検出します。

表 13-22 udb.sv.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	表示するセッション変数の名前
result		SessionVariable	セッション変数

udb.sv.mod

このコマンドは、セッション変数を変更します。変数を持続させる場合は、-p パラメータを使ってパスワードを設定する必要があります。

表 13-23 udb.sv.mod コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
name	[R]	文字列	変更するセッション変数の名前
secure	[O]	文字列	値を表示するかどうか。表示しない場合は true。デフォルトは false
desc	[O]	文字列	新しいセッション変数の説明
value	[O]	文字列	このユーザーの新しいセッション変数値
result		SessionVariable	新しいセッション変数

udb.sv.re

このコマンドは、ユーザーのセッション変数をすべて暗号化しなおします。

表 13-24 udb.sv.re コマンドの引数

引数		構文	説明
u	[R]	文字列	ユーザー名
p	[R]	文字列	ユーザーのパスワード
op	[R]	文字列	これらの変数の暗号化に使用された古いパスワード

認証コマンド

udb.login

ユーザーログインに続いて、認証用の SessionID を返します。

表 13-25 udb.login コマンドの結果

結果	構文	説明
result	SessionID	セッション ID

udb.logout

このコマンドは、実行ユーザーをログアウトします。

udb.whoami

このコマンドは、現在のセッションの所有者を帰します。

表 13-26 udb.whoami コマンドの結果

結果	構文	説明
result	UserID	現在のユーザー ID

udb.p:アクセス許可を管理するコマンド

udb.p コマンドでは、N1 Grid Service Provisioning System ソフトウェアで設定されたアクセス許可に関する情報を表示することができます。

表 13-27 udb.p コマンドの概要

コマンド	説明
udb.p.la	すべてのアクセス許可を一覧表示する
udb.p.lo	指定されたアクセス許可を検出する

udb.p.la

このコマンドは、すべてのアクセス許可を一覧表示します。

表 13-28 udb.p.la コマンドの結果

結果	構文	説明
result	PermissionArray	アクセス許可

udb.p.lo

このコマンドは、指定されたアクセス許可を検出します。

表 13-29 udb.p.lo コマンドの引数と結果

引数/結果		構文	説明
ID	[R]	PermissionID	アクセス許可の ID
result		Permission	アクセス許可

udb.l:ログイン構成の管理

udb.l.la

このコマンドは、すべてのログイン構成を一覧表示します。

表 13-30 udb.l.la コマンドの結果

引数	構文	説明
result	LoginConfiguration-Array	ログイン構成の一覧

第 14 章

util:その他の CLI コマンド

この章では、Master Server アプリケーションのバージョンの表示、オブジェクトの書式設定、ファイルの Perl 型変換や XSLT 変換を行うその他のコマンドについて説明します。

util コマンドの概要

以下の表に、この章で説明する CLI コマンドの概要を示します。

表 14-1 util コマンドの概要

コマンド	説明
<code>util.msv</code>	Master Server アプリケーションのバージョンを表示する
<code>util.reformat</code>	オブジェクトの書式を設定する
<code>util.xfm</code>	直列化オブジェクト表現を人間が読める形式に変換する

`util.msv`

このコマンドは、Master Server アプリケーションのバージョンを表示します。

表 14-2 util.msv コマンドの引数と結果

結果	構文	説明
result	文字列	Master Server アプリケーションのバージョン

util.reformat

このコマンドは、オブジェクトの書式を設定します。

以下に、特定のコマンドで使用可能なコマンド固有の出力書式を一覧表示します。

cdb.detail	コンポーネントの詳細テキスト出力
cmp.detail	比較の詳細テキスト出力
fdb.detail	フォルダの詳細テキスト出力
hdb.detail	ホストデータの詳細テキスト出力
net.detail	ネットワークデータの詳細テキスト出力
net.summary	ネットワークデータの簡易出力
pdb.detail	プランの詳細テキスト出力
pe.detail	プラン実行による詳細テキスト出力
plg.detail	プラグインの詳細テキスト出力
rule.detail	通知規則の詳細テキスト出力
udb.deep	ユーザーとユーザーグループについて説明する非常に詳細なテキスト出力
udb.detail	ユーザーとユーザーグループについて説明する詳細テキスト出力
udb.summary	ユーザーとユーザーグループについて説明する簡易テキスト出力

表 14-3 util.reformat コマンドの引数と結果

引数/結果	構文	説明
self	[R]	Object
result		Object
		引数と結果
		変更されない変数

util.xfm

このコマンドは、直列化オブジェクト表現を人間が読める形式に変換するために使用します。

表 14-4 util.xfm コマンドの引数

引数		構文	説明
in	[R]	ReaderWrapper	変換する入力ストリーム
type	[R]	TransformType	入力ストリームに適用する変換の種類
xfm	[R]	ReaderWrapper	変換後のストリーム

例 14-1 util.xfm コマンドの使用

この例では、PERL 型変換を行います。PERL 型変換は、perl.xml ファイル内の in.txt ファイルで指定されたテキストに記述されています。結果は、標準出力に書き出されます。-of 引数を使って、標準出力をファイルにリダイレクトすることもできます。

```
cr_cli -cmd util.xfm -in in.txt -type PERL -xfm perl.xml -u terry -p 123xyz
```

入力ストリームのクラスは ReaderWrapper なので、各ストリームのソースを指定する際、String2ReaderWrapper コンバータでサポートされている構文を使用できます。たとえば、in.txt ファイルからではなく標準入力から入力を読み込むには、-in in.txt の代わりに -in - を使用します。

付録 A

入力タイプ

以下の表では、CLI コマンドに渡される各種入力引数の構文について説明します。

12 ページの「表記上の規則」には記載されていませんが、角括弧 ([]) で囲まれたテキストはオプションを表します。

表 A-1 CLI の入力タイプの構文

入力タイプ	構文
AppInstance、 AppInstanceID	次のいずれか ■ NM: <i>host-name</i> : RA ■ NM: <i>host-name</i> : LD ■ NM: <i>host-name</i> : MS ■ [ID:] <i>ID</i>
AppTypeCriteria	以下の値をコンマまたはパイプで区切った形式のリスト ■ RA ■ LD ■ MS または empty

表 A-1 CLI の入力タイプの構文 (続き)

入力タイプ	構文
AttributeCriteriaList	<p><i>attribute-criteria</i> [; <i>attribute-criteria</i>] *</p> <p><i>attribute-criteria</i> は次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>attribute-name-contains-glob-pattern-value</i> ■ <i>attribute-name-equals-glob-pattern-value</i> <p><i>attribute-name</i> は次のいずれかの値</p> <p><i>sys.hostName</i>, <i>sys.description</i>, <i>sys.hostType</i>, <i>sys.ipAddress</i>, <i>sys.parent</i>, <i>sys.OS</i>, <i>sys.OSVersion</i>, <i>sys.OSArch</i>, または <i>user-defined-name</i></p> <p><i>glob-pattern-value</i> はワイルドカード文字 * と . を含む文字列</p>
Boolean	<p>true, false はそれぞれ次のように表される。アルファベットの大文字と小文字は区別される</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ true, yes, t, または + ■ false, no, f, または -
Category、 CategoryID、 CategoryIDSet	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>NM:category-name</i> ■ [ID:]ID
CompCheckInID	[ID:]ID
ComponentTypeRefID	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>NM:component-type-ref-name</i> ■ [ID:]ID
Component、 ComponentID	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>NM:component-name</i> [: <i>version</i>] <i>version</i> の指定を省略した場合、最新バージョンが使用される ■ [ID:]ID
ComponentVariableSettings、 ComponentVariableSettingsID	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>NM:component-name</i> [: <i>version</i>] : <i>var-settings-name</i> <i>version</i> の指定を省略した場合、最新バージョンが使用される ■ [ID:]ID
ConnectionType	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ raw ■ ssh ■ ssl

表 A-1 CLI の入力タイプの構文 (続き)

入力タイプ	構文
CriteriaShorthand	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ 任意 ■ planStart ■ planEndNormal ■ planEndAbnormal ■ diffStart ■ diffEndNormal ■ diffEndAbnormal ■ system ■ admin ■ custom
DifferenceSettings、 DifferenceSettingsID	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ NM:<i>diff-name</i> ■ [ID:]ID
ExecutionPlan、 ExecutionPlanID	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ NM:<i>plan-name</i> [:<i>version</i>] <i>version</i> の指定を省略した場合、最新バージョンが使用される ■ [ID:]ID
Folder、 FolderID	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ NM:<i>folder-name</i> ■ [ID:]ID
Group、 GroupID	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ NM:<i>group-name</i> ■ [ID:]ID
Hashtable	<i>key</i> [= <i>value</i>] [; <i>key</i> [= <i>value</i>]] * <i>key</i> はキーワード <i>value</i> は次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>single-value</i> ■ [<i>single-value</i>, <i>single-value</i> [, <i>single-value</i>] *] 一番外側の角括弧は必須 例: <ul style="list-style-type: none"> ■ color=red;emptykey ■ arraykey=[value1,value2]
Host、 HostID	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ NM:<i>host-name</i> ■ [ID:]ID

表 A-1 CLI の入力タイプの構文 (続き)

入力タイプ	構文
HostIDArrayArray	<p><i>host-ID-array</i> [; <i>host-ID-array</i>] *</p> <p><i>host-ID-array</i> は次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>host-ID</i> [, <i>host-ID</i>] * ■ <i>host-set-ID</i> [, <i>host-set-ID</i>] * <p><i>host-ID</i> は H : <i>host-ID</i>、 <i>host-set-ID</i> は HS : <i>host-set-ID</i></p> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ H : NM : <i>host1</i> ■ HS : NM : <i>hostSetFoo</i> , H : NM : <i>h1</i> ; H : NM : <i>h2</i>
HostIDSet	<i>host-ID</i> [, <i>host-ID</i>] *
HostSearch、 HostSearchID	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NM : <i>host-search-name</i> ■ [ID :] <i>ID</i>
HostSearchIDSet	<i>host-search-ID</i> [, <i>host-search-ID</i>] *
HostSet、 HostSetID	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NM : <i>host-set-name</i> ■ [ID :] <i>ID</i>
HostSetIDSet	<i>host-set-ID</i> [, <i>host-set-ID</i>] *
HostType、 HostTypeID	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ NM : <i>host-type-name</i> ■ [ID :] <i>ID</i>
HostTypeVarList	<i>key</i> [= <i>single-value</i>] [; <i>key</i> [= <i>single-value</i>]] *
InputStreamWrapper	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 標準入力の場合は - ■ <i>input-file-name</i>
InstalledComponentRef	<i>component-name</i> : <i>component-version</i> : <i>install-path</i>
InstalledResourceRef	<i>resource-ID</i> : <i>install-path</i>
Level	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>host</i> ■ <i>dir</i> ■ <i>file</i>
NamedBlockType	<p>次のいずれか</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>install</i> ■ <i>uninstall</i> ■ <i>call</i>

表 A-1 CLI の入力タイプの構文 (続き)

入力タイプ	構文
OutputStreamWrapper	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>[+]filename</code> (+ は追加を意味する) ■ 標準出力の場合は - ■ 標準エラーの場合は -:
Permission, PermissionID	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>permID</code> ■ <code>NM:permID</code> ■ <code>NM:userdb.read</code> ■ <code>NM:userdb.write</code> ■ <code>NM:host.read</code> ■ <code>NM:host.write</code> ■ <code>NM:hostType.read</code> ■ <code>NM:hostType.write</code> ■ <code>NM:rule.read</code> ■ <code>NM:rule.write</code> ■ <code>NM:diff.read</code> ■ <code>NM:diff.write</code> ■ <code>NM:diffrun:allhosts</code> ■ <code>NM:diffrun:host-set-name</code> ■ <code>NM:folder:folder-name:write</code> ■ <code>NM:folder:folder-name:checkin-current</code> ■ <code>NM:folder:folder-name:autorun</code> ■ <code>NM:folder:folder-name:execute:allhosts</code> ■ <code>NM:folder:folder-name:execute:host-set-name</code> ■ <code>NM:folder:folder-name:owner</code>
PhysicalCriteria	<code>phys-attribute [phys-attribute] *</code> <code>phys-attribute</code> は <code>virt</code> または <code>phys</code> または <code>empty</code>
Plugin, PluginID	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>NM:plugin-name</code> ■ <code>[ID:]ID</code>
ReaderWrapper	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ 標準入力の場合は - ■ <code>input-file-name</code>
RoxAddress	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ <code>IP-name:port-number</code> ■ <code>IP-address:port-number</code>

表 A-1 CLI の入力タイプの構文 (続き)

入力タイプ	構文
RuleID、 RuleMetaData	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ NM:rule-name ■ [ID:]ID
Scope	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ component ■ host ■ hostset
SeverityArray	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ empty ■ INFO[+] (+ は「以上」を意味する) ■ WARNING[+] ■ ERROR[+]
StringArray	string [, string] *
StringArrayArray	string-array [, string-array] *
Style	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ モデルとモデルの場合は mm ■ モデルとインストールの場合は mi ■ インストールとインストールの場合は ii
SystemServiceRefID	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ NM:system-service-ref-name ■ [ID:]ID
TimeInterval	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ 時間間隔が不定の場合は - ■ @Date (現在から Date まで) Date の書式は mm/dd/yyyy HH:MM ■ [#weeksw] [#daysd] [#hoursh] [#minutesm] [#secondss] [#millisecsms] ■ [#weeksw] [#daysd] [#hours:]#minutes [.#seconds [. #milliseconds]]
User、 UserID	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ NM:user-name ■ [ID:]ID
WriterWrapper	次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> ■ [+]filename (+ は追加を意味する) ■ 標準出力の場合は - ■ 標準エラーの場合は -: